横浜市立大学内科専門医育成プログラム F

研修期間：3 年間（基幹施設 1-2 年間＋連携・特別連携施設 1-2 年間）

内科専門医研修プログラム・・・・・ P.1
専門研修施設群・・・・・・・・・・P.19
専門研修プログラム管理委員会・・・P.89
専攻医研修マニュアル・・・・・・・P.90
指導医マニュアル・・・・・・・・・P.97
各年次到達目標・・・・・・・・・ P.100
専門研修指導医一覧・・・・・・・ P.101

1.理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，横浜市南部医療圏に位置する横浜市立大学附属病院を基幹病院とし，神奈川県横浜市を中心とした地域において，初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が連携病院と協力して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

2) 本プログラムは横浜市立大学附属 2 病院が連携すると共に，地域の連携病院とも協力して行われるものであり，神奈川県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は，ニーズに応じた医療を提供できうる内科専門医として神奈川県全域を支える医師の育成を行います.

3) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 1-2 年間＋連携・特別連携施設 1-2 年間：原則として大学病院を 1 年間，大学病院以外を 2 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力の事です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムを常に自覚することが大切です．さらにリサーチマインドの素養をも修得して柔軟性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返し学ぶだけでなく，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医

による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命【整備基準 2】

1) 横浜市南部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安心安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，５）臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時に，６）チーム医療を円滑に運営できる研修を目指します.

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は生涯にわたり常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4) リサーチマインドを持ち，診療の中でも研究素材を見つけることができ，臨床研究，基礎研究を実際に行って，将来の医療の発展のために契機となりうる研修を目指します.

特性

1) 本プログラムは，神奈川県横浜市南部医療圏に位置する大学病院である横浜市立大学附属病院病院を基幹施設として，近隣医療圏および東京都にある連携施設とで内科専門研修を行う．超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 1-2 年間＋連携施設・特別連携施設 1-2 年間の 3 年間：原則として大学病院を 1 年間，大学病院以外を 2 年間，になります.

2) 横浜市立大学の専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

3) 基幹施設である横浜市立大学附属病院は，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な大学病院であるとともに，同じ医療圏にある附属市民総合医療センターと共に地域の病診・病病連携の中核であります．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

4) 基幹施設である横浜市立大学附属病院または連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，

「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.100 別表 1「各年次到達目標」参照）．

5）横浜市立大学附属病院研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年のうち 2 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

6）基幹施設である横浜市立大学附属病院での 1-2 年間と専門研修施設群での 1-2 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（P.100 別表 1 「各年次到達目標」参照）．

7）日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために，提示されている症例数（P.100 別表 1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく，研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2）内科系救急医療の専門医
3）病院での総合内科（Generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

横浜市立大学附属 2 病院および連携する専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と総合診療的なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，神奈川県横浜市南部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2.募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，横浜市立大学専門研修プログラムの専攻医の上限は 1 学年 30 名とします．

1）横浜市立大学附属病院後期研修医は例年附属 2 病院を合わせて 1 学年 60～90 名を連携施設と共に育成している実績があります.
2）公立大学法人の附属病院として雇用人員数に一定の制限があるので，募集定員の大幅増は現実性に乏しいと考えられます.
3）横浜市立大学附属病院の各内科 Subspecialty 診療科に割り当てられた雇用人員数に応じて，募集定員を数名の範囲で調整することがあります．内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくと良いでしょう.
4）剖検体数は 2015 年度 41 体，2016 年度 24 体，2017 年度 39 体，2017 年度 26 体，2018 年度 23 体，2019 年度 22 体，2020 年度 25 体，2021 年度 19 体，2022 年度 15 体、2023 年度 18 体、2024 年度 14 体、2025 年度 13 体（2026 年 2 月 13 日現在）です.
5）代謝，内分泌，総合診療，救急領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 30 名に対し十分な症例を経験可能です.
6）13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.19「横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群」参照）.
7）1 学年 30 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.
8）研修する連携施設には，高次機能・専門病院，地域基幹病院，地域医療密着型病院など，計 57 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.
9）専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は達成可能です.

3.専門知識・専門技能とは

1）専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2）専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4.専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標【整備基準 8～10】（P100 別表 1「横浜市立大学附属病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200

症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します．

○専門研修（専攻医）1年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます．
・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します．
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます．
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います．

○専門研修（専攻医）2年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にその研修内容を登録します．専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）への登録を終了します．
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます．
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．

○専門研修（専攻医）3年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にその研修内容を登録します．
・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します．
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理を一切認められないことに留意します．
・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指

導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します．なお，初期臨床研修時の症例は，80 症例まで登録が認められ，病歴要約として 14 症例まで登録が認められます.

横浜市立大学附属病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1 年間＋連携施設 2 年間）を基本とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します.

一方で当プログラムでは、あえてコースを分けての募集はしません（終了要件を満たす見込みを予測することは難しいと想定するため）が，カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます（連動研修（並行研修）概念図参照）．可能であれば，内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域を決めておくことをおすすめします.

※Subspecialty 専門研修との連動研修（並行研修）についての注意点

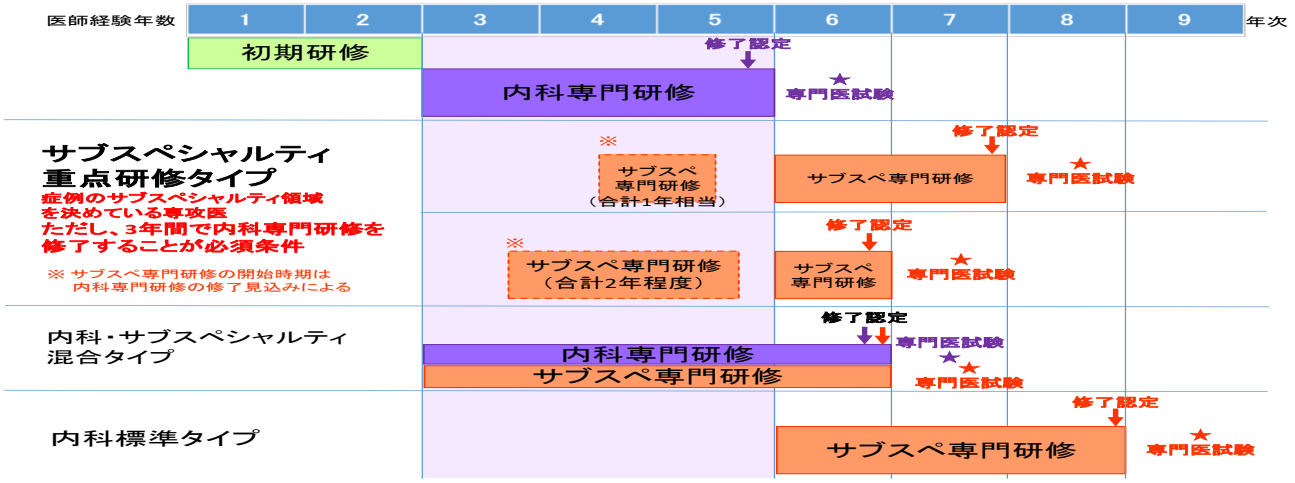
内科専門研修と Subspecialty 領域のそれとを厳密に区別することは実際的ではないと考えられる．内科専門研修中でも，Subspecialty 専門研修施設で Subspecialty 指導医の指導を受け，Subspecialty 専門医の研修と同等レベルの Subspecialty 領域の症例を経験する場合には，その研修内容を Subspecialty 専門研修として認める（連動研修（並行研修））ことができます．ただし，その場合には内科専門研修を確実に修了できることを前提としていることに格段の注意が必要です.

特に，Subspecialty 専門医をできるだけ早期に取得することを希望しており，かつ内科専門研修に余裕がある専攻医であれば，連動研修（並行研修）が可能です．内科専門研修修了要件の達成見込みに応じて，内科専門研修 3 年間のうち 1 年間または 2 年間（合計で：開始時期は内科専門研修の修了見込みによる。Subspecialty の研修に比重をおく期間の開始時期・終了時期，継続性は問わない）（サブスペシャルティ重点研修タイプ）を Subspecialty 専門研修とみなすことは可能です.

もし，3 年間の内科専門研修で修了要件が満たせない場合には，4 年間で終了要件を満たせば内科専門研修の修了認定を行います．同時に，各 Subspecialty 研修の修了要件を満たす場合には，内科専門医試験に合格することにより，同じ年度に各 Subspecialty 専門医試験の受験が可能になります（内科・サブスペシャルティ混合タイプ）。

なお，各 Subspecialty 研修の登録開始時期などは日本専門医機構が決定する予定です.

内科専門研修とサブスペ専門研修の連動研修（並行研修）（概念図）



2）臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～5）参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます．

③ 3 年間の研修の中で，総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます．

④ 各領域をローテートしている間も救急患者を積極的に診療する事で内科領域の救急診療のさらに経験を積みます．

⑤ 当直医として予期せぬ心肺停止や，急激に病状が変化する患者などの経験を積みます．

⑥ 要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します．

⑦ 日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために，提示されている症例数（P.100 別表 1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく，研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います．

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

１）内科領域の救急対応，２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，４）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，５）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します．

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（横浜市立大学附属病院 2025 年度実績 113 回）
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します.
③ CPC（基幹施設 2025 年度実績 17 回）
④ 研修施設群合同カンファレンス（2025 年度：年 1 回開催）に参加します.
⑤ 地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 1 回）に参加します.
⑥ JMECC 受講（横浜市立大学：2016 年度開催実績 1 回：受講者 11 名，2017 年度開催実績 1 回：受講者 12 名，2018 年度開催実績 1 回：受講者 11 名，2019 年度開催実績 1 回：受講者 12 名，2022 年度開催実績 1 回：受講者 12 名、2023 年度開催実績 2 回：受講者 23 名、2024 年度開催実績 2 回：受講者 23 名、2025 年度開催実績 2 回：受講者 22 名）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します.
⑦ 内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）
⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)，B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.
① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.
・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
・専攻医による逆評価を入力して記録します.
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.19「横浜市立大学附属病院専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である横浜市立大学附属病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）.
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
② 後輩専攻医の指導を行う.
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します.
② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.
④ 内科学に通じる基礎研究を行います.

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います.

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，横浜市立大学内科専門医育成プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，

コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.

横浜市立大学内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である横浜市立大学附属病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するために病院の規模や立地の異なる施設での研修は必須です．横浜市立大学内科専門研修施設群研修施設は神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都内の医療機関などから構成されています.

横浜市立大学附属病院は，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な大学病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核の役割も担っています．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設，特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，基幹病院である横浜市立大学附属病院の他，

（連携施設）

1 公立大学法人　横浜市立大学附属市民総合医療センター
2 一般財団法人神奈川県警友会　けいゆう病院
3 一般財団法人同友会　藤沢湘南台病院
4 一般社団法人日本海員掖済会 横浜掖済会病院
5 小田原市立病院
6 学校法人帝京大学　帝京大学医学部附属溝口病院
7 公益社団法人地域医療振興協会　横須賀市立市民病院
8 公立学校共済組合　関東中央病院

9　国際医療福祉大学附属熱海病院
10　国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院
11　国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院
12　国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院
13　国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院
14　公益社団法人　地域医療振興協会　横須賀市立うわまち病院
15　社会福祉法人 親善福祉協会　国際親善総合病院
16　社団法人日本厚生団　長津田厚生総合病院
17　社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市東部病院
18　社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市南部病院
19　社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷横浜病院
20　茅ヶ崎市立病院
21　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立足柄上病院
22　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立がんセンター
23　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立循環器呼吸器病センター
24　独立行政法人　労働者健康福祉機構　関東労災病院
25　独立行政法人労働者健康福祉機構　横浜労災病院
26　独立行政法人　国立病院機構　相模原病院
27　独立行政法人　国立病院機構　横浜医療センター
28　独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院
29　独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院
30　日本赤十字社 静岡赤十字病院
31　日本赤十字社 秦野赤十字病院
32　日本赤十字社東京都支部　大森赤十字病院
33　平塚市民病院
34　藤沢市民病院
35　町田市民病院
36　大和市立病院
37　横浜市立市民病院
38　横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
39　NTT 東日本関東病院
40　川崎医療生活協同組合　川崎協同病院
41　汐田総合病院
42　藤枝市立総合病院
43　医療法人同心会遠山病院
44　山梨県立中央病院
45　湘南鎌倉総合病院
46　独立行政法人地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター
47　独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院
48　大船中央病院
49　川崎市立井田病院

50　東芝林間病院
51 日本赤十字医療センター
52 横浜総合病院
53 恵仁会 松島病院
54 国際医療福祉大学成田病院
55 国際医療福祉大学三田病院
56 新百合ヶ丘総合病院
57 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院
（特別連携施設）
54　みながわ内科クリニック
55　医療生協かながわ生活協同組合　藤沢診療所
56　公益財団法人　神奈川県結核予防会　かながわクリニック
57　神奈川みなみ医療生活協同組合　逗子診療所
58　医療法人社団　松和会　弘明寺腎クリニック
59　中島内科クリニック
60　公益財団法人柿葉会　神奈川診療所
61　田浦内科クリニック
62　清水ヶ丘病院
63　上六ッ川内科クリニック
64　医療法人　横浜柏堤会　よこすか浦賀病院
65　医療法人平和会　平和病院
66　医療法人社団　小磯診療所
67　社会福祉法人　心の会　三輪医院
68　医療法人社団　はとりクリニック
69　医療法人社団柏信会　青木病院
70　医療生協かながわ生活協同組合　戸塚病院
71　医療法人社団景翠会　金沢病院
72　医療法人社団水野会　平塚十全病院
73　公益財団法人　神奈川県結核予防会　中央健康相談所
74　医療法人横浜柏堤会　戸塚共立第１病院
75　三浦市立病院
76　うしおだ在宅クリニック
77　しまむらクリニック
78　聖ヨゼフ病院
で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，横浜市立大学附属病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療

経験を研修します.

横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群(P.19)は，神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都内，山梨県内，静岡県内，三重県内の医療機関から構成されています.

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

横浜市立大学附属病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

横浜市立大学附属病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために，提示されている症例数（P.100 別表 1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく，研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います.

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

基幹施設である横浜市立大学附属病院内科で，専門研修（専攻医）のいずれかの期間に 1 年間の専門研修を行います.

各々の年度の前に専攻医の希望・将来像，研修達成度，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）および研修施設群の各医療機関の状況などを基に，専門研修（専攻医）研修施設を調整し決定します．専門研修（専攻医）3 年間のうち 1 年間，基幹施設で研修をします．なお，カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修も可能です（個々人により異なります）．内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくと良いでしょう.

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

(1) 横浜市立大学附属病院臨床研修センターの役割

- 横浜市立大学附属病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います.
- 横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.
- 3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- 年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結

果は日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します.

・臨床研修センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，臨床研修センター（仮称）もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います.

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.

・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します.

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センター（仮称）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに横浜市立大学附属病院内科専門研修管理委員会で検討し，

統括責任者が承認します.

（4）修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します.

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済み（P.100 別表 1「年次到達目標」参照）.

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv）JMECC 受講

v）プログラムで定める講習会受講

vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2）横浜市立大学附属病院専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に横浜市立大学附属病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用います．なお，「横浜市立大学附属病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】（P.90）と「横浜市立大学附属病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】（P.97）と別に示します.

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

（P.89「横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

1）横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会（専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者、プログラム管理者，事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.89「横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）．横浜市立大学附属病院内科専門研修管理委員会の事務局を，横浜市立大学附属病院臨床研修センターにおきます.

ii）横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する横浜市立大学附属病院

内科専門研修管理委員会の委員として出席します.

基幹施設，連携施設ともに，毎年 5 月 31 日までに，横浜市立大学附属病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います.

① 前年度の診療実績

a) 病院病床数，b) 内科病床数，c) 内科診療科数，d) 1 か月あたり内科外来患者数，e) 1 か月あたり内科入院患者数，f) 剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a) 前年度の専攻医の指導実績，b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数，c) 今年度の専攻医数，d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③ 前年度の学術活動

a) 学会発表，b) 論文発表

④ 施設状況

a) 施設区分，b) 指導可能領域，c) 内科カンファレンス，d) 他科との合同カンファレンス，e) 抄読会，f) 机，g) 図書館，h) 文献検索システム，i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j) JMECC の開催.

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します.

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用います.

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.

専門研修（専攻医）は基幹施設である横浜市立大学附属病院もしくは連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.19「横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群」参照）.

基幹施設である横浜市立大学附属病院病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
- 公立大学法人医師として労務環境が保障されています.
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります.
- ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています.
- 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
- 敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.17「横浜市立大学附属病院内科専門施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行

い，その内容は横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・担当指導医，施設の内科研修委員会，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムを評価します.

・担当指導医，各施設の内科研修委員会，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます.

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

横浜市立大学附属病院臨床研修センター（仮称）と横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会は，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムの改良を行います.

横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果

と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，毎年 6 月から website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，横浜市立大学附属病院臨床研修センターの website の横浜市立大学附属病院医師募集要項（横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します.

ただし，正式な期日は日本専門医機構内科領域認定委員会の定めによります.

(問い合わせ先) 横浜市立大学附属病院臨床研修センター

E-mail: resident@yokohama-cu.ac.jp

URL: http://www.yokohama-cu.ac.jp/fukuhp/

横浜市立大学附属病院専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にて登録を行います.

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です.

他の領域から横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります.

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません.

横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群
研修期間：3 年間（基幹施設 1-2 年間＋連携施設 1-2 年間）

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県および東京都内の医療機関から構成されています．

横浜市立大学附属病院は，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設，特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，基幹病院である横浜市立大学附属病院の他，

（連携施設）

1　公立大学法人　横浜市立大学附属市民総合医療センター
2　一般財団法人神奈川県警友会　けいゆう病院
3　一般財団法人同友会　藤沢湘南台病院
4　一般社団法人日本海員掖済会 横浜掖済会病院
5　小田原市立病院
6　学校法人帝京大学　帝京大学医学部附属溝口病院
7　公益社団法人地域医療振興協会　横須賀市立市民病院
8　公立学校共済組合　関東中央病院
9　国際医療福祉大学附属熱海病院
10　国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院
11　国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院
12　国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院
13　国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院
14　公益社団法人　地域医療振興協会　横須賀市立うわまち病院
15　社会福祉法人 親善福祉協会　国際親善総合病院
16　社団法人日本厚生団　長津田厚生総合病院
17　社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市東部病院
18　社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市南部病院
19　社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷横浜病院
20　茅ヶ崎市立病院
21　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立足柄上病院
22　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立がんセンター
23　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立循環器呼吸器病センター
24　独立行政法人　労働者健康福祉機構　関東労災病院
25　独立行政法人労働者健康福祉機構　横浜労災病院

26　独立行政法人　国立病院機構　相模原病院
27　独立行政法人　国立病院機構　横浜医療センター
28　独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院
29　独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院
30　日本赤十字社 静岡赤十字病院
31　日本赤十字社 秦野赤十字病院
32　日本赤十字社東京都支部　大森赤十字病院
33　平塚市民病院
34　藤沢市民病院
35　町田市民病院
36　大和市立病院
37　横浜市立市民病院
38　横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
39　NTT 東日本関東病院
40　川崎医療生活協同組合　川崎協同病院
41　汐田総合病院
42　藤枝市立総合病院
43　医療法人同心会遠山病院
44　山梨県立中央病院
45　湘南鎌倉総合病院
46　独立行政法人地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター
47　独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院
48　大船中央病院
49　川崎市立井田病院
50　東芝林間病院
51 日本赤十字医療センター
52 横浜総合病院
53 恵仁会 松島病院
54 国際医療福祉大学成田病院
55 国際医療福祉大学三田病院
56 新百合ヶ丘総合病院
57 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院

（特別連携施設）
54　みながわ内科クリニック
55　医療生協かながわ生活協同組合　藤沢診療所
56　公益財団法人　神奈川県結核予防会　かながわクリニック
57　神奈川みなみ医療生活協同組合　逗子診療所
58　医療法人社団　松和会　弘明寺腎クリニック
59　中島内科クリニック
60　公益財団法人柿葉会　神奈川診療所

61　田浦内科クリニック
62　清水ヶ丘病院
63　上六ッ川内科クリニック
64　医療法人　横浜柏堤会　よこすか浦賀病院
65　医療法人平和会　平和病院
66　医療法人社団　小磯診療所
67　社会福祉法人　心の会　三輪医院
68　医療法人社団　はとりクリニック
69　医療法人社団柏信会　青木病院
70　医療生協かながわ生活協同組合　戸塚病院
71　医療法人社団景翠会　金沢病院
72　医療法人社団水野会　平塚十全病院
73　公益財団法人　神奈川県結核予防会　中央健康相談所
74　医療法人横浜柏堤会　戸塚共立第１病院
75　三浦市立病院
76　うしおだ在宅クリニック
77　しまむらクリニック
78　聖ヨゼフ病院
で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.

地域基幹病院では，横浜市立大学附属病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

専門研修施設（連携施設）の選択

・専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します.
・3 年間のうち 2 年間，大学以外の連携施設で研修をします．モデルコースを下に示します.

	コース記号	1 年目の研修病院	2 年目の研修病院	3 年目の研修病院
モデルコース	F-1	附属病院	協力病院	協力病院
	F-2	協力病院	附属病院	協力病院
	F-3	協力病院	協力病院	附属病院

なお，カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修も可能です（個々人により異なります）．内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくと良いでしょう．

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

基本的に神奈川県横浜市南部医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。その他東京都，静岡県，山梨県，三重県の施設があります．

1)専門研修基幹施設

横浜市立大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 81 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 129 回、感染対策 32 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 24 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　21 演題）をしています。
指導責任者	前田愼 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 81 名、日本内科学会総合内科専門医 47 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　11,655 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　4,545 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携

療・診療連携	なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2)専門研修連携施設

1　　公立大学法人　横浜市立大学附属市民総合医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が40名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会について集合研修やe-Learningの利用により定期開催（2015年度実績 医療倫理1回、医療安全4回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2015年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績40回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績2演題）をしています。
指導責任者	平和 伸仁 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜市立大学は2つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医40名、日本内科学会総合内科専門医23名 日本消化器病学会消化器専門医10名、日本肝臓学会専門医3名、日本循環器学会循環器専門医8名、日本内分泌学会専門医2名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本腎臓病学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、 日本血液学会血液専門医4名、日本神経学会神経内科専門医3名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2名、日本リウマチ学会専門医2名、 日本感染症学会専門医3名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　40,608名（1ヶ月平均）　　入院患者　19,878名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

[ここに入力]

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本救急医学会指導医指定施設 救急科専門医指定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 呼吸療法専門医研修施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 ＮＳＴ稼働施設 日本救急撮影技師認定機構実地研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本急性血液浄化学会認定施設 など

2　　一般財団法人神奈川県警友会　けいゆう病院

認定基準 1） 専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･けいゆう病院後期研修医(常勤)として労務環境が保障されています. ･年一回ストレスチェックを行い、衛生管理委員会および庶務課で対処する体制があります. ･ハラスメント委員会が院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 17 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 4 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（2015 年度実績　けいゆう病院横浜中央地区病診連携会 2 回、地域連携症例検討会 2 回、みなとみらい肝炎勉強会 2 回、糖尿病内科病診連携の会 1 回），専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，膠原病を除く総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、神経、内分泌、代謝、血液、感染症、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています．各専門科の学会でも年間数例の学会発表を行っています.
指導責任者	永見圭一 【内科専攻医へのメッセージ】 　横浜市みなとみらい地区にある 410 床の総合病院です．一内科制をとっており、各専門科をローテーションするのではなく複数科の症例を同時に主治医として担当することが当院の研修の最大の特徴です．専門医のサポートを得ながら診断と治療

	を行い、さらに自身の外来でフォローすることもできます．地域の中核病院として病診連携、病病連携を経験し、患者さんの社会的背景、療養環境に配慮した医療を行える内科医になってもらうことを目指しています．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　17 名，日本内科学会総合内科専門医　13 名， 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本腎臓学会腎臓専門医 3 名，日本肝臓学会肝臓専門医 3 名，日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名，　日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2 名，日本透析医学会透析専門医 1 名，日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 455 名（1 日平均）　入院患者 146 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本透析医学会教育関連施設　　など

3　　一般財団法人同友会　藤沢湘南台病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・藤沢湘南台病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が藤沢湘南台病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 1 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 3 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　病診、病病連携カンファランス 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え

	ます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 4 演題）を予定しています。
指導責任者	山本裕司 【内科専攻医へのメッセージ】 藤沢湘南台病院は神奈川県の藤沢市北部にあり、急性期一般病棟 210 床、地域包括ケア病棟 30 床、回復期リハビリテーション病棟 33 床、療養病棟 30 床、緩和ケア病棟 19 床の合計 322 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っている。横浜市立大学付属病院、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医２名、日本内科学会総合内科専門医２名 日本消化器病学会消化器専門医２名、日本循環器学会循環器専門医１名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　12,630 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　224 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

4　一般社団法人日本海員掖済会 横浜掖済会病院

1）専攻医の環境 初期臨床研修制度の臨床研修協力施設（地域医療研修）である。 研修に必要な研修医室・図書室・インターネット環境がある。 当院常勤医師又は非常勤医師として労務環境が保障されている。 当院にコンプライアンス委員会が整備されている。 女性専攻医の為に医局、ロッカー室、休憩室、シャワー室、当直室が整備。
2）専門研修プログラム 指導医が 7 名、内科系認定医・専門医が多数在籍（下記参照）。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会との連携を図る。 医療安全管理・院内感染対策講習会を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、その為の時間的余裕を与える。 地元医師会と共催し、地域参加型の合同症例検討会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、その為の時間的余裕を与える。
3）診療経験の環境 カリキュラムに示す内科領域１３分野の内、総合内科、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
4）学術活動の環境 日本内科学会講演会あるいは地方会に年間で計１演題以上の学会発表する環境にある。 その為の時間的余裕を与えている。

[ここに入力]

5）指導責任者 齋藤　紀文（副院長） [内科専攻医へのメッセージ] 当院内科は一般内科、消化器内科、血液内科、呼吸器内科を専門とする医師で 構成されていますが、消化器内科・血液内科、呼吸器内科のみならず老年医療や 福祉医療にも積極的な治療を行っています。 専門分野では消化管全般の治療、Ｃ型慢性肝炎の各種治療、 肝癌の局所治療・カテーテル治療・白血病・リンパ腫治療等に実績があります。 また、専門医による専門外来（循環器・呼吸器・神経内科）を 行っています。 地域医療・老年医療では、介護老人保健施設（えきさい横浜）を 併設し、横浜市中区・南区において、医療・介護・福祉における 地域医療連携の中心的役割を果たしています。 その一環として横浜市大附属病院と連携し、臨床研修医の 地域医療研修や学生実習、及び地域の診療所との病診連携を実施。 又、横浜中央看護専門学校の臨床実習を任されています。 内科専門医として、医療・介護制度を理解し、急性期医療・ 回復期医療、更には在宅医療迄をも学ぶ研修が出来ると思います。
6）指導医数 日本内科学会認定医６名、日本内科学会総合内科専門医１名、 日本消化器病学会専門医３名、日本肝臓学会肝臓専門医２名、 日本消化器内視鏡学会指導医１名、日本消化器内視鏡学会専門医２名、 日本東洋医学会専門医１名、日本血液学会血液指導医１名、 日本臨床腫瘍学会専門医１名
7）外来・入院患者数 外来患者　２７５名／日　　入院患者　１１５名／日
8）病床数 急性期一般病床　１５１床（併設の老人保健施設　８８床）
9）経験出来る疾患群 研修手帳にある１３領域７０疾患群の症例を幅広く経験する事が出来る。
１０）経験出来る技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の 症例に基づきながら幅広く経験する事が出来る。
１１）経験出来る地域医療・診療連携 急性期医療だけでなく医療・介護・福祉の連携を含め、高齢化社会に 対応した地域医療体制を経験できます。
１２）学会認定施設（内科系） 日本大腸肛門学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設

5　　小田原市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	➢ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ➢ 小田原市の正規職員（地方公務員）の医師として労務環境が保障されている。 ➢ メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課給与・福利係）がある。 ➢ 監査委員・コンプライアンス担当が小田原市に整備されている。 ➢ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室が整備されている。 ➢ 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	➢ 指導医が７名籍している（下記）。 ➢ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ➢ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

[ここに入力]

	➢ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ➢ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ➢ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績地元医師会合同勉強会 6 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	➢ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ➢ 専門研修に必要な剖検（2013～2015 年度実績平均 7.3 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	➢ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしている。 ➢ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 9 回）している。 ➢ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 11 回）している。 ➢ 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている。
指導責任者	川口　竹男 【内科専攻医へのメッセージ】 小田原市立病院は、神奈川県西地域の基幹病院として、急性期医療及び高度医療に取り組んでおります。各大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また、地域がん診療連携拠点病院としての機能を有しているため、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医７名、日本内科学会総合内科専門医５名、 日本消化器病学会消化器専門医４名、日本循環器学会循環器専門医４名、日本糖尿病学会専門医１名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医１名、日本透析医学会透析専門医１名、日本感染症学会感染症専門医１名、日本腎臓学会腎臓専門医１名、日本呼吸器学会呼吸器専門医２名、日本肝臓学会肝臓専門医１名　ほか
外来・入院患者数	外来患者　　5,170.5 名（1 ヶ月平均）　入院患者　　3,596.8 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また、３次救命救急センターを有しているため、内科系においてもエマージェンシーの経験をすることができる。循環器領域に関しては、心筋梗塞、狭心症、虚血性心疾患などのインターベンション治療、アブレーション不整脈治療、消化器領域に関しては緊急内視鏡治療、糖尿病性ケトアシドーシス治療、急性腎不全に対する透析治療など、幅引く経験することができる。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定教育施設 日本消化器学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

[ここに入力]

	日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院　など

6　　学校法人帝京大学　帝京大学医学部附属溝口病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 身分について・・・学校法人職員、労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 内科指導医が 18 名、総合内科専門医が 10 名在籍している。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2015 年度予定）に定期的に参加するよう専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績登録医の会 1 回、循環器連携の会 2 回、胸部ＸＰ読影カンファランス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。救急は搬送患者数が多く、週 2 日は専門医が指導に当たる環境にある。血液、感染症、アレルギーに関しては上記診療科で随時診療を行っている。 ・ 専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 11 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）をしている。 ・臨床研修に必要な図書室・インターネット環境などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。
指導責任者	馬場　泰尚 【内科専攻医へのメッセージ】 帝京大学医学部附属溝口病院の内科病床は 200 床以上あり、急性期から慢性期まで幅広い研修が可能です。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的な診断・治療の流れを経験し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になるとともに、剖検症例も経験できるものと考えます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　19,672 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　11,454 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携

療・診療連携	なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設 ＮＳＴ稼働施設認定書 胸部・腹部ステントグラフト実施施設 など

7　公益社団法人地域医療振興協会　横須賀市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。 ・ ハラスメント委員会が横須賀市立市民病院に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、0 歳児からの保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 10 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 11 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　1 演題）をしている。 Subspeciality 関連学会での発表も積極的に行っていく。
指導責任者	小松　和人 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立市民病院は、三浦横須賀地区の中核病院として、三浦半島の西南部の医療を担っています。市中病院として、内科全科に専門医が在籍し、豊富なコモンディジーズを経験することができます。また、病病連携や病診連携等を通して、地域医療を学ぶことも目的としています。

[ここに入力]

	単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名（うち日本内科学会総合内科専門医 6 名） 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、　日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、　日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、　日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、　日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、　日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本感染症学会専門医 1 名、　日本救急医学会救急科専門医 0 名、
外来・入院　患者数	外来患者　14396 名（1 ヶ月平均）　入院患者　421 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本心血管インターベンション学会研修施設、 日本呼吸器学会専門医認定施設 、 日本腎臓学会専門医研修施設、 日本透析医学会認定制度教育関連施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、 日本血液学会専門医制度血液研修施設、 日本神経学会専門医制度認定准教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本リウマチ学会専門医制度認定教育施設、 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、 日本精神神経学会専門医制度研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定施設 など

8　公立学校共済組合　関東中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています. ･関東中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスセンター）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育も対応可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 17 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全講習会(2015 年度実績 8 回)、感染対策講習会(2015 年度実績 2 回)を定期的に開催しています。専攻医には受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのた

	めの時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2015 年度実績　7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス(城南地区合同カンファレンスなど)を定期的に開催しています．専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(2015 年度実績 17 件)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています. ・治験管理室を設置し、定期的に開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　5 演題）をしています.
指導責任者	高見　和孝　【内科専攻医へのメッセージ】 関東中央病院は，全国に 8 施設ある公立学校共済組合設置の病院の一つで，東京都内の大学病院，関連病院と連携し，人材の育成や地域医療に貢献してまいりました．本研修プログラムは，全人的，臓器横断的な内科医療の実践に必要な知識と技能の習得のみならず,高い倫理観と社会性を備えた内科専門医の育成を目指します。また同時にリサーチマインドを育み，医学の進歩に貢献し，将来の日本の医療を担う医師の養成も目的とします.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名，日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名， 日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2 名，日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名， 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医（内科）4 名， 日本老年医学会老年病専門医 3 名，日本救急医学会救急専門医 1 名 など
外来・入院患者数	外来患者 9,428 名（内科 1 ヶ月平均）入院患者 5,274 名（内科 1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて希な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます. 血液，膠原病分野の入院症例はやや少ないものの，外来症例を含め十分な症例の経験が可能です.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定医制度認定施設（内科系） 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定指定施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度修練施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本老年医学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定ＮＳＴ稼働施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設　など

9　　国際医療福祉大学附属熱海病院

[ここに入力]

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 後期臨床研修医として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する組織（安全衛生委員会）がある。 ・ ハラスメント委員会が病院内に設置されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、夜間保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が１１名在籍している（下記）。 ・ 研修管理委員会を設置して，病院内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 6 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）へ定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2018 年度予定）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　５演題）をしている。
指導責任者	佐藤　哲夫 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は我が国初の医療・福祉の総合大学として開学した国際医療福祉大学の附属病院として最先端の高度専門医療を提供する体制で運営を行うとともに、熱海市という超高齢化地域の中で地域医療の充実に向けての様々な対応も行っています。その中で目指すところは全人的医療であり、地域の住民から信頼され地域の医療拠点として貢献できる病院づくりです。研修を通じ高度な専門知識と質の高い診断・治療技術を身につけるとともに、患者様の立場を理解し、地域に根ざした全人的な診療を実践できる医師への成長を目指しています。そのため都市型の施設との連携をとりながら内科専門医に向けての必要な研修を行う体制を整えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医１１名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器病専門医４名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5 名、日本高血圧学会専門医２名、日本老年医学会専門医１名 日本循環器学会循環器専門医３名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医２名、日本糖尿病学会糖尿病専門医１名 日本腎臓学会腎臓専門医１名、日本呼吸器学会呼吸器専門医３名 日本神経学会神経内科専門医２名、日本アレルギー学会アレルギー専門医１名
外来・入院　患者数	外来患者　17,315.8 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　6,981.7 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち血液（3 疾患群）と膠原病（２疾患群）を除く 65 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などが経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本老年医学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本内科学会認定医制度教育病院

[ここに入力]

	日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機講認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設など

10　国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・身分について・・・平塚共済常勤、労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 18 名、総合内科専門医が 12 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）に定期的に参加するよう専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績登録医の会 1 回、循環器連携の会 2 回、 胸部ＸＰ読影カンファランス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための 時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。救急は搬送患者数が多く、週 2 日は専門医が指導に当たる環境にある。血液、感染症、アレルギーに関しては上記診療科で随時診療を行っている。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 11 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしている。 ・臨床研修に必要な図書室・インターネット環境などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。
指導責任者	梅澤　滋男 【内科専攻医へのメッセージ】 平塚共済病院の内科病床は 200 床以上あり、急性期から慢性期まで幅広い研修が可能です。心臓センター、脳卒中センターのほかに２次救急ですが 19 床を有する救急センターがあり 2.5 次の救急医療を実践しています。当院は神奈川県がん診療連携指定病院であり、がん診療の専門的研修ができます。 プログラムそのものは柔軟に考えますが、基本的には 4 か月ごとのスパンでじっくり

	研修するプログラムとしています。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的な診断・治療の流れを経験し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になるとともに、剖検症例も経験できるものと考えます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　19,122 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　11,642 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設 ＮＳＴ稼働施設認定書 胸部・腹部ステントグラフト実施施設 など

11　国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修病院の指定を受けている。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・横須賀共済病院の専攻医として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・近傍に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 19 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内での研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 25 回、感染対策 24 回、計 50 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

[ここに入力]

	・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2018 年度予定）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・病床数（全体）：747 床、うち内科定床：335 床 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 65 以上の疾患群）につき研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 15 体、2015 年度実績 16 体）である。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・治験センターが設置している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。（2015 年度実績 7 演題）
指導責任者	渡辺 秀樹 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀共済病院は横須賀・三浦地区の二次医療圏の中核病院として、急性期医療を担っています。特に救急医療に力を入れており、内科専門医研修として十分な症例を経験できます。また、各内科の専門医・指導医が豊富にいるため、内科専門医研修医への指導体制も充実しています。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援などを積極的に行っています。 さらに地域医療支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療からがん診療、そして地域連携と多様な病状・病態の症例を経験可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院　患者数	外来患者　13,173 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　763.4 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定医制度教育関連施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度認定施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

[ここに入力]

12　国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。 ・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各 1 名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 11 名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　計 20 回程度）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　5 演題）をしている。
指導責任者	道下　一朗 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜栄共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり、協力病院と連携して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　20669　名（1 ヶ月平均）　　入院患者　774　名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本動脈硬化学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設

[ここに入力]

	日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定 日本認知症学会教育施設 日本病理学会研修登録施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

13　国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。 ・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各１名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 15 名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　金沢区 CPC　1 回、消化器疾患　内科・外科・病理カンファレンス　2 回　神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会　1 回　呼吸器疾患医療連携セミナー　2 回など　各科および複数科合同で計 10 回程度）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　1 演題）をしている。
指導責任者	小泉晴美 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜南共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。

[ここに入力]

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　11,215 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　1,278 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

14　公益社団法人　地域医療振興協会　横須賀市立うわまち病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する健康管理室がある。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 16 名在籍している（下記）。 ・ 初期および後期研修管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受

[ここに入力]

	講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域のうち、総合内科、呼吸器、消化器、循環器、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　5 演題）をしている。
指導責任者	岩澤孝昌 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立うわまち病院は地域医療機関や救急隊との良好な連携により効率の良い入院治療に重点を置いた高次医療を提供しています。また人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医２名、日本循環器学会循環器専門医８名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医１名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 8 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　510.0 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　334.8 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器病学会専門医修練施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設Ａ 日本環境感染学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 胸部ステントグラフト実施施設　　など

15　社会福祉法人 親善福祉協会　国際親善総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 社会福祉法人の病院常勤医として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室、職員課）ががあり、常勤産業医によるストレスチェックおよびストレス相談（随時）、精神科非常勤医による専門外来が月 1 回ある。 ・ セクハラスメント苦情受付担当が、各部署および病院管理部門に配置されており管理部長が統括して対策をとる体制が整備されている(2015 年度現在)。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 隣接する同一法人敷地内に院内保育所があり利用可能である。20 時までの時間外保

[ここに入力]

	育が可能であり、火曜と金曜日には 24 時間保育を行っている。（2015 年度現在）
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 10 名在籍している（下記）。 ・ 常設の研修管理委員会内に専門医研修を扱う小委員会を設置する予定である（2017 年度）。内科系の部長全員で内科専攻医研修委員会を設置して毎月一回以上の定例会を通じて，施設内で研修する内科専攻医の研修全体を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る（2017 年度より）。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績、医療安全 10 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。医療倫理の講習会は 2016 年度から開催する予定である。 ・救急蘇生に関して日本救急医学会の ICLS コース（2015 年度　5 回）および AHA-BLS コース（2015 年度年 4 回）を定期的に開催している。JMECC についても 2015 年度中に 1 回開催した。定期的に開催し、専攻医には受講を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度以降予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 度実績　泉区医師会院内学術講演会 4 回、救急カンファレンス 3 回、循環器クリニカルカンファレンス 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 0 演題）を予定している。
指導責任者	清水誠　（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 国際親善総合病院は泉区にある唯一の急性期地域中核病院として、この地域の医療の入り口および大黒柱としての機能を担っています。地域の開業医等の医療機関と密接に連携し、救急分野、がん関連分野、心血管生活習慣病分野、などを重点に総合病院としての機能を果たしていきます。専攻医の皆さんには専門科にとらわれない研修ができるように配慮します。外来や救急、当直などで受け持った患者を退院まで診ることにより、幅広い疾患を経験するとともに、中規模病院のメリットを生かし指導医間で連絡をとりあい、専攻医のニーズに応じた疾患がタイムリーに経験できるような体制をとります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　10 名、日本内科学会総合内科専門医　10 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 4 名、日本プライマリーケア学会認定指導医 3 名
外来・入院　患者数	外来患者　　4974 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　2995 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例すべてを経験できる可能性がありますが、当院では一部の疾患（血液内科、膠原病）については担当科がないため不十分になることもありえます。緩和ケア内科(緩和ケア病棟)が 2016 年度からスタートし、今まで以上に（総合内科Ⅰ（一般）、総合内科Ⅲ（腫瘍））について幅広い経験ができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 終末期ケア、緩和ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能についても指導医の指導のほかパラメディカル（専門看護師、認定看護師、NST チーム、呼吸ケアチーム、理学療法士、言語療法士、作業療法士、社会福祉士ほか）とともに病棟でチーム医療を実践できます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療について、地域医療連携部（看護師専従 2 名、社会福祉士 4、事務員 5 名）とともに様々な形の病診・病病連携などを経験できます。
学会認定施設（内	日本内科学会認定医制度教育病院

[ここに入力]

科系）	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定制度教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本病理学会研修認定施設B 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本静脈経腸栄養学会実施修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 日本心血管インターベンション学会研修関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳ドック学会認定脳ドック施設

16　社団法人日本厚生団　長津田厚生総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 日本内科学会認定教育関連施設病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 長津田厚生総合病院常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事総務課職員担当）がある。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 病院近傍に保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 3 名在籍している。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　、医療安全 2 回、感染対策２回、医療倫理は開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2016 年度実績１回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2016 年度実績　病診、病病連携カンファランス 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績１演題発表）。
指導責任者	戸田憲孝 【内科専攻医へのメッセージ】 長津田厚生総合病院は横浜市市北部にあり、急性期一般病棟１７０床、療養病棟２０床の合計１９０床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っている。横浜立大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本呼吸器学会専門医１名、日本透析医学会専門医１名ほか

[ここに入力]

外来・入院　患者数	外来患者　　63940 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　1 02 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 など

17　　社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市東部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 済生会横浜市東部病院　常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事室）がある。 ・ ハラスメント委員会が済生会横浜市東部病院に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地より徒歩 10 分の院内保育所が利用できる。　病児保育、病後児保育は院内で対応している。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 27 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 51 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年 1 回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症、救急血液、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 専門研修に必要な剖検(2015 年実績 10 体)を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　9 演題）をしている。内科学会関東地方会の幹事病院である。 内科学会以外の内科専門分野の学会活動も活発で、海外の学会を含め、年間 100 題以上発表している。専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている。
指導責任者	比嘉眞理子 【内科専攻医へのメッセージ】 　済生会横浜市東部病院は、横浜市の中核病院であり、救命救急センターなどを中心とした急性期医療や高度専門医療を中心に提供する病院です。救命救急センターと総合診療センターでは内科医が経験すべき高度な救急疾患から common　disease に至るまで豊富な症例を診療しています。地域がん診療連携拠点病院でもあり、がん診療に

	はサイバーナイフやロボット手術などの先進的な医療機器を備えて最新の医療を行っています。二人主治医制や連携パス導入などの病診連携にも積極的に取り組み地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは、初期臨床研修修了後に横浜市立大学病院の内科系診療科と当院が協力・連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本肝臓病学会専門医 3 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名。
外来・入院　患者数	外来患者　　8,475 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　722 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療も経験できる。 特に、当院から 5Km 横浜寄りに位置する済生会神奈川県病院は、慢性期医療・緩和ケア・在宅療法を主に担っている。当院は済生会神奈川県病院　内科と医局の一体化を実践しており、人事交流を行っている。済生会神奈川県病院と専攻医の研修において在宅医療・高齢者医療・緩和ケアにおいて連携を取っていく。当院は、病診連携・病病連携についても病院全体で取り組んでおり、専攻医の地域医療連携研修の経験ができる。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本感染症学会連携研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 など

18　　社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市南部病院

認定基準 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。

[ここに入力]

1)専攻医の環境	・済生会横浜市南部病院シニアレジデント医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が済生会横浜市南部病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・・指導医が 10 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 7 回（各複数回開催）、感染対策 11 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　地域医療連携研修会 6 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）を予定しています。
指導責任者	川名一朗 【内科専攻医へのメッセージ】 　済生会横浜市南部病院は横浜南部地域の基幹病院であり、急性期病院として専門的、先進的医療、救急医療における地域の中心的役割を果たしている。地域医療の充実とともに質の高い内科医の育成のため内科専門医制度プログラムの基幹施設としてまた藤沢市民病院を基幹施設とするプログラムの連携施設として内科専門研修を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　10 名、日本内科学会総合内科専門医　4 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医　　1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医　1 名、日本感染症学会専門医　2 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　8,615 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　6,506 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器病学会認定施設 日本アレルギー学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本環境感染学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本甲状腺学会専門医施設

[ここに入力]

	日本心血管インタベーション学会研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床腫瘍学会研修施設 など

19　社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷横浜病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型指定病院である。 ・一般症例が豊富であり、経験できる症例数が多い。 ・メンタルハラスメントに適切に対処出来るよう専門のカウンセラーがいる。 ・セクハラ・パワハラについてコンプライアンスホットラインが聖隷事業団にあり、各担当者がいる。 ・敷地内に院内保育所がある。 ・女性医師が働きやすい環境を拡充するため、支援策を設け（時短労働、週 4 日勤務など）2010 年に日本経済新聞より子育て大賞を受賞した。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム環境	・指導医が 16 名在籍している（下記）。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 倫理委員会 3 回、安全管理 12 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2014 年度実績 4 回、2015 年度 6 回予定)し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績 3 回うち内科系発表 2 件）を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液・神経・膠原病 ・感染症を除く総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を有している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演目以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしている。
指導責任者	神谷 雄二 【内科専攻医へのメッセージ】 聖隷横浜病院は、横浜市保土ヶ谷区にあり、横浜旧市街地の約 50 万人のエリアを医療圏にしています。キリスト教精神に基づく隣人愛、安全で良質な医療の提供、地域貢献の継続の 3 項目を理念とし、急性期医療を中心とした地域密着型の中規模病院（急性期一般病棟 250 床、地域包括ケア病棟 50 床の計 300 床）として横浜市の救急拠点病院にも認定されています。23 の標榜診療科があり、各科毎に専門的な医療を提供していますが、各科間のコミュニケーションは円滑で研修環境としては非常に充実しています。横浜市立大学等を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として、内科専門研修と行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本超音波医学会認定超音波専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 2 名、日本消化管学会 胃腸科指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医　6 名、日本心血管インターベンション治療学会認定医 3 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名
外来・入院	外来患者 6,874 名(1 ヵ月平均延数)　 入院患者 4,437 名(1 ヵ月平均延数)
経験できる疾患群	・研修手帳にある 10 領域・51 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	・上記 51 疾患群に関する技術・技能を経験することができます。
経験できる 地域医療・ 診療連携	・横浜市の将来像である超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、 病診、病病連携などを経験できます。当院には地域包括ケア病棟があり、地域包括ケアシステムの中の病院の役割について経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設

[ここに入力]

	日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会連携研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会認定準教育施設

20　茅ヶ崎市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・茅ヶ崎市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課健康衛生担当）があります。 ・セクシュアル・ハラスメント苦情処理委員会が茅ヶ崎市役所に整備されています。2016 年度にハラスメント対策委員会に拡大整備予定です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　茅ヶ崎内科医会症例検討会 3 回、救急症例検討会 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 6 演題）を予定しています。
指導責任者	佐藤　忍 【内科専攻医へのメッセージ】 茅ヶ崎市立病院は神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　13 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 **日本肝臓学会認定肝臓専門医 2 名、**日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、

[ここに入力]

	日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　8,206 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　285 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 など

21　　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立足柄上病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 神奈川県立病院機構医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ ハラスメント委員会（機構本部コンプライアンス室が扱う）が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 8 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 0 回（2016 年度 1 回）、医療安全 23 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

[ここに入力]

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 10 回）している。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績　5 回）している。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績　1 演題だが、関連学会にその他に 3 演題を発表）をしている。
指導責任者	加藤佳央 【内科専攻医へのメッセージ】 　神奈川県立足柄上病院は、神奈川県立病院機構の 5 病院唯一の総合病院として、機構の他病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科と協力病院とが連携して、内科医を養成するものです。また、高度の診断能力を有し、患者および患者家族のニーズを満たす適切なマネジメントを遂行可能で医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的としています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者　　4768 名（1 ヶ月平均）入院患者　3260　名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医教育関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定関連施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修施設など

22　　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。 ・ 監査・コンプライアンス室が神奈川県立病院機構本部に整備されている。 ・ 女性専門医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、女性専攻医は利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 1 4 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催））し、専攻医

	に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績　11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　神奈川肺癌呼吸器研究会 11 回、横浜西部消化器カンファランス 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。総合内科、循環器、感染症の分野はある程度の研修が可能である。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 2 演題）をしている。
指導責任者	金森平和 【内科専攻医へのメッセージ】 神奈川県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院であり、連携施設としてがんの基礎的、専門的医療を研修できます。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医　14 名、総合内科専門医　9 名、消化器病学会専門医 10 名、循環器学会専門医 2 名、呼吸器学会専門医 5 名、血液学会専門医 8 名、肝臓学会専門医 3 名、アレルギー学会専門医 1 名）
外来・入院　患者数	外来患者　　6,987 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　427 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち、がん専門病院として 6 領域 22 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育特殊病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導医制度指導施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

23　　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立循環器呼吸器病センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンス室が神奈川県立病院機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】	・指導医が 14 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹

[ここに入力]

2) 専門研修プログラムの環境	施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 11 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　呼吸器研究会 7 回、循環器研究会 10 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、感染症、アレルギーおよび代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	萩原恵里 【内科専攻医へのメッセージ】 循環器呼吸器病センターは循環器および呼吸器疾患の専門病院であり、連携施設として循環器、呼吸器疾患の診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼吸器疾患に関しては、結核を含む感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して全国有数の症例数を有しており、それぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　14 名、日本内科学会総合内科専門医　13 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、 日本糖尿病学会専門医　2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　6,870 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　321 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域、39 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および呼吸器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本アレルギー学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

24　独立行政法人　労働者健康福祉機構　関東労災病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。

[ここに入力]

【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・労務環境が保障されている。（衛生管理者による院内巡視・月 1 回） ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課・安全衛生委員会）がある。 ・ハラスメント相談員が院内に配置されている。女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 23 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに内科学会指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会（仮称）と臨床研修センター（2017 年度予定）を設置する。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（中原区 COPD 連携の会）（2015 年度実績 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 0 回：受講者 0 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017 年度予定）が対応する。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できる（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 13 体、2014 年度 9 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 12 回）している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 12 回）している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）をしている。

25　独立行政法人労働者健康福祉機構　横浜労災病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・労働者健康安全機構嘱託職員として労務環境が保障されています. ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課）、産業医がおります. ・ハラスメントについては、相談員（男女各１名）を置き、職員の相談に対応しており、必要に応じに職員相談委員会を開催する体制が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室を整備しています. ・敷地内に院内保育所を整備しています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 32 名在籍しています. ･医師臨床研修管理委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医にも受講を義務付けます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

[ここに入力]

認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 5 演題の学会発表をしています.
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】当院のすべての内科専門領域で専門医の指導のもと多くの症例と最新の診療を経験することができます。また院内でお行われている臨床研究に参画することでリサーチマインドの育成も行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名，日本内科学会専門医 13 名 日本消化器病学会専門医 3 名，日本消化器内視鏡学会専門医 3 名，日本循環器学会専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 4 名， 日本肝臓学会専門医 2 名，日本呼吸器学会専門医 4 名， 日本腎臓学会専門医 2 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 4 名，日本神経学会専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 15,708 名（内科系診療科のみの 1 ヶ月平均） 入院患者 6,487 名（内科系診療科のみの 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療、最新医療、臨床研究を体験しつつ内科専門医に求められる患者中心の標準治療を習得し、地域医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定脳卒中教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー専門医教育施設 日本がん治療認定研修施設 日本腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本心身医学会研修診療施設 日本心療内科学会研修施設（基幹研修施設） 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 日本肝臓学会認定施設

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する窓口がある。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医が16名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している（2015 年度実績　医療倫理に関しては研究センター主導でCITI Japanの受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年2回以上の開催をしている）。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績　3演題）をしている。
指導責任者	森田有紀子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、相模原地域の第三番目の規模の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える一方で、免疫異常（リウマチ、アレルギー）の我が国の基幹施設として臨床研究センターを併設した高度専門施設としての役割が期待されています。それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑽を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医の育成に努めています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医16名、日本内科学会総合内科専門医10名 日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医4名、 日本腎臓病学会専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医7名、 日本神経学会神経内科専門医2名、日本透析学会専門医1名、 日本アレルギー学会専門医（内科）7名、日本リウマチ学会専門医6名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　7214名（1ヶ月平均）　入院患者　318名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群、200症例のうち、189症例を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

[ここに入力]

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 など

27　独立行政法人　国立病院機構　横浜医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 横浜市立大学レジデントとして労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理委員会、産業医）がある。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、夜間保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 12 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 4 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液内科を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績　5 演題）をしている。
指導責任者	岩出和徳 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は横浜市南西部地域中核病院として、同地域や近隣の藤沢市、鎌倉市の医療機関と連携して地域医療のなかで、急性期病院の機能を担って診療をしています。内科系診療科はそれぞれの分野で質の高い診療を行っており、院内他診療科と連携し、総合的な診療を行っています。また医療安全、院内感染予防にも力を注いでおります。臨床研究部を擁しており、臨床治験や臨床研究を多数行っており、特に内科分野では高い業績があります。将来の日本の医療を担える人材を育成することができる病院であると自負しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、

	日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　5455 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　383.4 名（1 ヶ月新規入院数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域、63 疾患群の症例を経験することができます。ただし感染症領域の 4 疾患群はすべての内科系診療科で経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の診療所、病院、大学病院、施設などと連携診療を行っており、また在宅医療との連携も強化しております。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本透析医学会会員施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ICD/両心室ペーシング植え込み認定施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 など

28　独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・　研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 独立行政法人地域医療推進機構任期付常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員担当）がある。 ・ 研修センターが独立行政法人地域医療推進機構本部に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 9 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 12 回、医療安全 9 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス開催を予定している。専攻医に受講の時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（診療科別に複数回予定）を定期的に開催し、専攻医

[ここに入力]

	に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績日本内科学会総会　1 演題）をしている。
指導責任者	大岩功治 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は横浜市中区の中心地に位置する総合病院です。特徴は地域に密着した医療を提供する独立行政法人 JCHO グループ 57 病院一つとして、スケールメリットによる地域医療の向上を図り、医療介護連携にともなう地域包括ケアシステムの中核となる病院を目指しています。長年、横浜市救急拠点 B 病院として日々の救急医療を中心に地域の急性期医療の一端を担ってきました。さらに平成 26 年より地域包括ケアシステムとして、地域包括ケア病棟、在宅医療の後方支援となる在宅療養後方支援病院をスタートさせて、地域医療の拠点となる病院として総合診療的医療にも力をいれています。また、増加する外国人患者に対応するため、全国に１０施設ある医療通訳拠点病院の１つに認定されており、隣接する中華街などの外国人患者に対応し、国際感覚のある医師の育成にも力を入れています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医９名、日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本内科学会認定医１８名、日本内科学会総合内科専門医３名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医３名、日本呼吸器学会専門医１名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医２名、日本がん治療認定医専門医３名、日本肝臓学会専門医２名、日本心血管インターベンション治療学会専門医１名、日本プライマリケア連合学会認定医１名、日本呼吸器内視鏡学会専門医１名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者 4577 名（1 ヶ月平均延数））　　入院患者 3705 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、さらに近年経験が必要な在宅医療に対する研修なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本急性血液浄化学会指定施設 日本高血圧学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本総合健診医学会・日本人間ドック学会研修施設 日本消化器がん検診学会指導施設 日本がん治療認定医機構研修施設

29　独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ JCHO 病院常勤医として労務環境が保障されている。 ・専攻医ひとりひとりに専用の机、本棚、ロッカー、インターネットに接続された端

[ここに入力]

	末が整備されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理科・安全衛生委員会）がある。 ・ 倫理委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室付き当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。 ・院内保育所は、小児科外来と密に連携している。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 7 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実　症例検討会 2 回、循環器セミナー2 回、消化器病セミナー1 回、計 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、アレルギー、膠原病、感染症および総合診療の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 1 演題）をしている。 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、学会参加費の補助制度がある。和文・英文論文の筆頭著者としての執筆をサポートする体制がある。
指導責任者	川井　孝子 【内科専攻医へのメッセージ】 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。当院は、地域医療、高齢者医療、コモンディジーズの診療などに強みがあります。また、患者さん、患者さんの家族、医療スタッフとのコミュニケーション力を高め、問題解決能力を引き出すサポートをする体制を整えています。全国 57 病院からなる JCHO 病院組織の一員であることから、他の JCHO 病院との相互連携もすすめていく予定です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医 5 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　5,700 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　3,000 名（1 ヶ月平均延数）
病床	100 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち 9 領域の症例を経験することができます。 週 1 回内科合同カンファレンスを行っており、複数の領域を横断的に診療することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 多職種カンファレンスを積極的に行っており、チーム医療の研修を行えます。 訪問看護ステーションを併設しており、急性期医療から慢性期、在宅医療までをシームレスに研修することができます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本透析学会認定教育関連施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会認定専門医制度施設

[ここに入力]

	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 （以上ホームページ掲載順）

30　日本赤十字社 静岡赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･静岡赤十字病院常勤あるいは非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 17 名在籍しています。 ･プログラム管理委員会（2017 年度中に設置予定）で、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会（2016 年度に設置予定）があります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 29 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群内科合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型内科合同カンファレンス（2015 年度実績 40 回程度）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 5 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2013 年度 12 体、2014 年度実績 13 体、2015 年度 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 4 回）しています。 ･治験委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 14 演題）をしています。
指導責任者	・久保田英治 【内科専攻医へのメッセージ】本プログラムは、静岡県静岡市医療圏の急性期病院である静岡赤十字病院を基幹施設として、近隣の連携施設と協力し、将来的に静岡県内だけでなく日本全国で活躍できる「主治医機能」をもった内科専門医の養成を基本理念としています。主治医機能とは、患者の持つ全ての病気を抽出・管理し、それに対して診療責任を持つ医師の役割のことです。主治医機能とは、単に「自分が主治医である」というような想いや感情のみで達成されるものではなく、主治医機能を発揮するために作られた診療方式を常日頃から訓練・実践することにより達成されると考えています。本プログラムでは、主治医機能を発揮するために作られたカルテ記載方式兼診療思考方式である「総合プロブレム方式」を修得することができます。また、本プログラム専門研修施設群での 3 年間の研修で、内科指導医の指導の下、内科専門医制度研修カリキュラムに定められ

	た研修を通じ、内科学的基本的臨床能力も併せて修得することがでます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門指導医 1 名、日本内分泌代謝学会指導医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科指導医 5 名、 日本アレルギー学会専門医（小児科）1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本 日本感染症学会インフェクションコントロールドクター1 名、 日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	延外来患者 6836 名、入院患者 256 名（いずれも 2015 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育準施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本静脈経腸栄養施設認定 NST 稼働施設 など

31　日本赤十字社 秦野赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･医局と同じフロアに図書室・インターネット環境があり、電子ジャーナル・各種データベースなどへアクセスできます. ・秦野赤十字病院後期臨床研修医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスならびにハラスメントに対処する職員がおり、常時相談を受け付けています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室・休憩室が整備されています. ･病院内に保育所があり、病児保育補助も行っています.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医が 14 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 6 回，医療安全 12 回，感染対策 2 回）しています. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（医師会と合同主催の講演会や研究会）を定期的

	に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています. ・各専門科においても内科系各学会において数多くの学会発表を行っております. ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています.
指導責任者	澤田　玲民 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は地域医療支援病院であり、DPC・電子カルテが導入され、7:1 看護体制をとっています。総合病院として多くの専門医を擁し、各種学会の認定施設になっています。たとえ忙しくハードでも、実り多い研修を希望する方に最適です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名，日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本人間ドック学会専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本血液学会血液専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本透析学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,375 名（1 ヶ月平均）　入院患者 6,654 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	地域医療を担う病院として、救急医療や継続的な医療、高齢者医療や緩和医療を赤十字理念に基づいて実施しています。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本認知症学会教育施設 など

32　　日本赤十字社東京都支部　大森赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・大森赤十字病院　常勤医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。 ・ハラスメント防止に対する規程及び委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・保育所の利用を必要とする場合は特段の配慮をする。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 14 名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫

	理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　16 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 5 回）しています。 ･臨床研究部門を設置し、臨床研究発表会や講演会を開催しています。（2015 年度実績　各 1 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績　内科系学会 21 演題、日本内科学会 2 演題）をしています。
指導責任者	後藤　亨 【内科専攻医へのメッセージ】 大森赤十字病院は地域に密着した急性期病院で、近隣の施設と連携した内科専門研修を行います。いわゆる common disease はもちろん、重篤な疾患でも地域で治療を完結できるようにレベルの高い診療を目指しております。当院の特徴として他職種とのチーム医療を基本としており、医師はじめ多くのスタッフでチーム大森を形成しています。私たちは、専攻医の皆様が、「将来当院で研修を行ったことを自慢できるような病院」を目指して日々研鑽を積んでいます。是非、私たちのチームの一員になってともに学んでいきましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　14 名、日本内科学会総合内科専門医　13 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 1 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、超音波医学会専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本心血管インターベンション学会専門医 1 名、日本老年医学会認定専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本血液学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 3 名、日本高血圧学会高血圧専門医 1 名、日本神経学会専門医 6 名、日本頭痛学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 16,922 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9,553 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設

[ここに入力]

	日本透析医学会教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 など

33　平塚市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤医師として採用され、安定した身分保障および労務環境が整えられています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります。 ・ ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、週 2 日は 24 時間利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科学会指導医が 12 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 10 回、感染対策 14 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 9 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。 また、血液、リウマチ膠原病・アレルギーについても非常勤医師の指導の下、外来・入院診療を行っています
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	谷口礼央 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜駅から JR で 30 分、湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で、専攻医は公立病院常勤医師として安定した身分が保証されています。 高度急性期、急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで、市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます。 平成 28 年に新館がオープンし、ゆったりとした外来・病棟、最新の設備を備えた救命病床や ICU/CCU、外来化学療法室・透析室・手術室、広いリハビリ室などが新館内に設置されました。現在本館も改装中です。また 320 列 CT や IVR－CT などの先進機器に加えて、新館開設に伴い最新鋭のリナック（Varian 社製 True Beam）も設置され、県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制が整えられています。 内科の広範な診療を支えるため、主な領域には常勤指導医がおり、また血液・リウ

	マチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます。放射線科や外科系診療科のスタッフも充実しており、救急医療に関しては地域の二次救急輪番制の中心病院として高度急性期疾患にも対応できるよう、ER 専門医も配置され指導を受けることが出来ます。 さまざまなカテゴリーの内科疾患を１症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる、充実した専門医研修を目指しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医０名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医１名、日本リウマチ学会専門医０名、 日本感染症学会専門医０名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　6297 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　255 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	高度急性期、急性期医療のほか、回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療、さらには高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携が経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳神経学会専門医研修施設 厚生労働省指定臨床研修病院 など

34　藤沢市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・藤沢市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が藤沢市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラ	・指導医は 17 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備

[ここに入力]

ムの環境	委員会から 2017 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2017 年度予定）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会，湘南地域救急医療合同カンファレンス，藤沢市内科医会循環器研究会，藤沢市内科医会呼吸器研究会，消化器病症例検討会；2015 年度実績 30 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 10 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017 年度予定）が対応します。 ・特別連携施設（湘南ホスピタル）の専門研修では、電話や週 1 回の藤沢市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度 8 体（2016 年 11 月 14 日現在）、2015 年度 12 体、2014 年度 6 体、2013 年度 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	常田康夫 【内科専攻医へのメッセージ】 藤沢市民病院は、神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、湘南東部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　12,819 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　489 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内	日本内科学会認定医制度教育病院

[ここに入力]

科系）	日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会教育関連施設 など

35　町田市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・町田市民病院常勤医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある。 ・ハラスメント委員会が町田市役所に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が１３名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全　複数回開催、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　町田市医師会・町田市民病院内科勉強会　１回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、糖尿病、代謝、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、アレルギーおよび膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 1 演題）している。
指導責任者	金崎　章 【内科専攻医へのメッセージ】 町田市民病院は町田市の中心的な急性期病院であり、横浜市立病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　１３名、日本内科学会総合内科専門医　９名 日本消化器病学会消化器専門医４名、日本循環器学会循環器専門医３名、 日本腎臓病学会専門医１名、日本呼吸器学会呼吸器専門医４名、

[ここに入力]

	日本消化器内視鏡学会専門医４名、日本アレルギー学会専門医（内科）２名、 日本リウマチ学会専門医　２名、日本肝臓学会専門医　２名、 日本糖尿病学会専門医　１名ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　１３０５名（1ヶ月平均）　　入院患者　　３６６名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会教育関連施設 日本肝臓学会関連施設 日本神経学会準教育施設 など

36　　大和市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大和市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課総務調整担当）があります。 ・ハラスメント委員会が大和市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地に近接した病院の保育所と夜間院内保育室がありどちらも利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 11 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 3 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　開放病床症例検討会 4 回、大和リウマチ懇話会 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症、および、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。

[ここに入力]

4)学術活動の環境	
指導責任者	松本裕 【内科専攻医へのメッセージ】 大和市立病院は神奈川県の県央地域の中心的な急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　11 名、日本内科学会総合内科専門医　9 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科） 1 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　6,059 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　264 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

37　横浜市立市民病院

認定基準 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市非常勤特別職々員として労務環境が保障されています。 ・職員の健康管理・福利厚生を担当する部署（総務課職員係）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用が可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・新基準による指導医が 34 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療安全 11 回，感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（2015 年度実績 横浜西部肝炎セミナー2 回、肺癌読影会 10 回等）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間

	的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，内分泌を除く総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、神経、膠原病、代謝、血液、感染症、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 8 演題）をしています。 ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに、英文・和文論文の筆頭著者として執筆する機会あがり、学術的な指導を受けることができます。 ・臨床試験管理室を設置し、定期的に受託研究審査委員会を開催しています 2015 年度実績 8 回）。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2015 年度実績 11 回）。 ・利益相反委員会（COI 委員会）を設置し、定期的に開催しています（2015 年度実績 3 回）。
指導責任者	小松 弘一（副病院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 自他ともに認める高度急性期医療を担っている病院で、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、第一種感染症指定医療機関、国の地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院に指定されているなど、日常よく遭遇する common disease から高度な医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積むことができます。質の高い内科医となるだけでなく、医療安全を重視し、地域の中核病院として病診連携、病病連携を経験して患者さんの社会的背景、療養環境に配慮した医療を行うことができる内科医を育成することを目指しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 34 名 日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本腎臓学会腎臓専門医 4 名 日本透析医学会透析専門医 3 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名 日本感染症学会感染症専門医 2 名 日本緩和医療学会緩和専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 9,399 名（1 ヵ月平均）　新入院患 596 名（1 ヵ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設

[ここに入力]

	日本透析医学会認定医制度専門医修練施設 日本血液学会認定研修施設 日本骨髄移植推進財団認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本神経学会専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設

38　横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・診療医として労務環境が保障されている。 ・女性専攻医も安心して勤務できるよう個室が完備され、当直室も整備されている。 ・メンタルストレスに対して相談機能がある。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 10 名在籍している。 ・医療安全、感染防止対策に係る研修会を定期的に開催（2015 年度実績 39 回）し、受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的に開催予定。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表予定。
指導責任者	城倉健 【内科専攻医へのメッセージ】 人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　3790 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　2466 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群のほとんどの症例が経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	高齢者の QOL を高めるため福祉施設などや診療所とも連携を推進し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会 認定施設	日本神経学会　専門医制度教育施設 日本脳神経外科学会　専門医訓練場所（認定施設の細則 C に適合する訓練場所） 日本リハビリテーション医学会　研修施設 日本脳卒中学会　専門医認定制度　研修教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内科学会認定教育関連施設 日本脳ドック学会　認定施設

[ここに入力]

	日本整形外科学会　専門医研修施設 日本麻酔科学会　麻酔科認定病院

39　NTT 東日本関東病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 · 研修に必要な図書室とインターネット環境（24H間使用可能）がある。 · ＨＳＲ・コンプライアンス委員会が院内に整備されている他、ＮＴＴグループ企業倫理委員会やヘルプラインの社外窓口も整備されている。 · 育児と子育て支援等の充実を図れる育児休職制度や育児のための短時間勤務制度が整備されている。 · 敷地内に独身寮、社宅を保有しており使用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	· 指導医が 16 名在籍、専門医が 40 名在籍している（下記）。 · 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 · 総合臨床懇話会・医療安全講演会・感染対策講演会を定期的に開催（2015 年度実績：　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 · 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える予定である。 · CPC を定期的に開催（2015 年度実績：ﾃﾞｽｶﾝ 11 回/ｷｬﾝｻｰﾎﾞｰﾄﾞ 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 · 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績：2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　7 演題）をしている。
指導責任者	・松橋信行（消化器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 ＮＴＴ東日本関東病院は東京都区南部（品川区）にある総合病院であり、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に横浜市立大学附属病院の内科系診療科と協力病院である当院が連携して、質の高い内科医を育成するものです。当院としては単に優れた内科医を養成するだけでなく、ＪＣＩ認定病院として医療安全・感染対策を重視しており、患者本位の医療サービスを通じて、医学の進歩並びに日本の医療を担える医師の育成に貢献したいと考えております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者：　内科系 13,612（2015/１ヵ月平均）　入院患者：　内科系 5,034（2015/１ヵ月平均延数） 外来患者：　内科系 13,187（2016/１ヵ月平均）　入院患者：　内科系 5,213（2016/１ヵ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

[ここに入力]

学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会（小児、呼吸器）教育施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本緩和医療学会研修施設、 日本血液学会研修施設、 日本血管インターベンション学会研修関連施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本循環器学会専門医研修施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本消化器病学会認定施設、 日本神経学会教育施設、 日本肝臓学会研修施設、 日本大腸肛門病学会専門医修練施設、 日本透析療法学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本内科学会認定医制度教育施設、 日本内分泌学会認定教育施設、 日本脳卒中学会研修教育施設、 腹部ステントグラフト実施施設、 胸部ステントグラフト実施施設、 日本リウマチ学会教育施設、 日本心身医学会研修診療施設、 日本総合病院精神医学会専門医研修施設、 日本透析医学会認定施設、 日本消化管学会胃腸科指導施設、 日本胆道学会指導施設 など

40　川崎医療生活協同組合　川崎協同病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 川崎協同病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・ ハラスメントに関する規定に基づき、相談や苦情窓口（所属管理者・本部総務部）が設置され、迅速かつ適切な対応がされています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ 敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 5 名在籍しています（下記）. ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理　2 回，医療安全 2 回（各複数回開催），感染対策 2 回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　病診，病病連携カンファランス 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器，神経，腎臓，代謝および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）を予定しています.

[ここに入力]

4)学術活動の環境	
指導責任者	田中　久善 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎医療生協は川崎協同病院をセンター病院に 7 つの診療所や老健施設等を有し，神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成を行っています．プライマリケアを中心とした適切な医療の提供はもちろん，地域や行政・福祉とも連携したヘルスプロモーションを展開しています．また，法人として介護事業や在宅医療にも力をいれて取り組んでおり，希望により訪問診療も経験できます．病院内では外部講師を招いた勉強会も定期的に行っています．後期研修では，たくさんの症例を経験して専門領域の技術を磨く一方で，ジェネラリストとしての総合性に磨きをかけることが重要と考え，スペシャリティとジェネラリティの一方に偏ることなく，両者を同時に追求し続けることのできる医師養成に取り組んでいます．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 3 名，日本消化器病学会消化器専門医 1 名， 日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者　　3,252 名（1 か月平均）　　入院患者　238 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 8 領域，27 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能 7 領域を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育施設， 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設， 日本プライマリケア学会認定医研修施設， 日本消化器病学会教育関連施設 など

41　汐田総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	➢ 図書室、インターネット、当直室、シャワー室、更衣室等の環境が整備されています。 ➢ 汐田総合病院常勤医としての労務環境が保障されています。 ➢ メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修委員会事務局）があります ➢ ハラスメント委員会が横浜勤労者福祉協会（法人内）に整備されています。 ➢ 病院の近隣に保育施設があり、優先的に利用が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	➢ 総合内科、消化器内科、神経内科にて 4 名の指導医が在籍しています。 ➢ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内における専攻医の研修を管理・支援し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ➢ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績：医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、その時間を保障します。 ➢ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、その時間を保障します。 ➢ 地域参加型のカンファレンスを開催し（2015 年度実績　鶴見区脳神経カンファレンス 1 回）、専攻医へ参加を義務付け、その時間を保障します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	➢ カリキュラムに示す内科 13 領域のうち総合内科、消化器内科、神経内科にて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	➢ 日本内科学会講演会あるいは同地方会、日本神経学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表をしています。（2015 年度実績 3 演題）
指導責任者	鈴木　義夫 当院は地域のかかりつけ病院として臓器別に捉われずに総合的に患者さんを受入れています。総合内科では脳卒中からプライマリケア、高齢者の複合疾患、在宅支援医療、各科との境界疾患を受持ち、消化器内科では上部下部内視鏡、EMR、ESD 検査を中心に外科とも連携しながら、様々な消化器疾患の治療にあたっています。神経内科では急性期の脳血管障害から回復期リハビリテーション及び在宅医療まで継続した医療が特徴で

[ここに入力]

	す。 地域に根ざした高機能ケアミックス病院として、急性期から回復期、そして在宅医療まで主治医として責任をもつこと、医学的観点だけではなく、患者さんの社会背景、生活背景を掴み必要に応じた医療・介護をマネージメントできる内科医を育成することを目標として、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民医療総合センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （内科系常勤医）	➢ 日本内科学会総合内科専門医 2名 ➢ 日本消化器病学会消化器病専門認定医 1名 ➢ 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 1名 ➢ 日本神経学会神経内科専門医 6名
外来・入院患者数	外来患者 3,905名（1ヶ月平均） 入院患者 237名 （1ヶ月平均）
経験できる疾患群	➢ 総合内科、消化器、代謝、神経は稀な疾患を除いて幅広く経験できます。また、他の領域では循環器、内分泌、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病及び類縁疾患、感染症、救急は到達レベルAの疾患は経験できます。
経験できる技術・技能	➢ 技術・技能評価手帳に記載されている内科専門医に必要な技術・技能を網羅することができます。
経験できる地域医療・診療連携	➢ 地域のかかりつけの医療機関として、病診・病院連携はもちろんのこと、医療に限らず、介護・行政との連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	➢ 日本内科学会認定医制度教育関連病院 ➢ 日本神経学会専門医制度教育施設 ➢ 日本脳卒中学会研修教育病院認定施設 ➢ 日本消化器内視鏡学会指導施設

42 藤枝市立総合病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·藤枝市病院事業職員の常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務課）があります。 ·ハラスメント委員会が、病院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また、地元私立幼稚園との連携保育も行っています。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が15名在籍しています。（下記） ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催（2015 年度実績：医療倫理1回、医療安全4回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2015 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 藤枝学術カンファランス 10回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 15 演題の学会発表（2015 年度実績 東海地方会11演題）を予定しています。

[ここに入力]

指導責任者	毛利　博 【内科専攻医へのメッセージ】 　藤枝市立総合病院は、静岡県中部に位置する中核病院であり、志太榛原二次医療圏約 47 万人の急性期医療を担う基幹病院です。2015 年 4 月に救急病床 20 床を有する救急センターが新築オープンし、2017 年 4 月の救命救急センターの指定を目指しています。 　2016 年度は初期臨床研修医 22 名、卒後 3～5 年目の医師 21 名、その出身大学も多岐にわたり、若手医師が良い影響を与え合い大いに活躍しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　15 名、日本内科学会総合内科専門医　10 名 日本消化器病学会消化器専門医　4 名、日本循環器学会循環器専門医　3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　2 名、日本リウマチ学会専門医　2 名 日本感染症学会専門医　2 名、日本腎臓病学会専門医　1 名 日本血液学会血液専門医　1 名、日本アレルギー学会専門医　1 名 日本神経内科学会専門医　1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,037.1 名（1 日平均）　入院患者 473.5 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地元医師会と極めて円滑な協力関係にあり、急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本リウマチ学会教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本神経学会専門医准教育施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本がん治療認定医研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本老年医学会認定施設 など

43　医療法人同心会遠山病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・指導診療医として労務環境が保障されている。 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように、個室が完備され、当直室も整備されている。 ・メンタルストレスに対して臨床心理士が配置され相談機能がある、
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 8 名在籍している（下記）。 ・ 医療安全、感染防止対策に係る研修会を定期的に開催（2016 年度実績 4 回）し、受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的に開催している。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。

[ここに入力]

指導責任者	青木俊和 【内科専攻医へのメッセージ】 遠山病院は横浜市立大学の二つの附属病院の地域医療研修病院として毎月 2 名程度研修を行い初期研修に携わっています。また人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本内分泌学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会指導医 1 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　6,061 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　2593 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群のほとんどの症例が経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	三重県の中勢伊賀地域の二次救急医療機関として急性期医療を担っている。 また、高齢者の QOL を高めるため福祉施設などや診療所とも連携を推進し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会 認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、 日本透析医学会教育関連施設、日本消化器内視鏡学会専門医修練施設、 日本プライマリケア学会認定医研修施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設、

44　山梨県立中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･地方独立法人山梨県立病院機構の非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります. ･ハラスメント防止委員会が院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 18 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（神宮寺禎巳副院長），プログラム管理者（梅谷健統括部長）（ともに指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と職員研修センターを設置します. ･医療倫理・医療安全・感染管理講習会を定期的に開催（2015 年度実績 13 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：MSGR：Medical Surgical Grand Round、キャンサーボード、バスキュラーボード、地域連携研修会、緩和ケア勉強会、特別講演会；2015 年度実績 60 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

[ここに入力]

	·日本専門医機構による施設実地調査に職員研修センターが対応します. ·特別連携施設の専門研修では，電話や週 1 回の山梨県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 11 体，2014 年度 3 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2015 年度実績 25 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 10 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	神宮寺　禎巳 【内科専攻医へのメッセージ】 山梨県立中央病院では、二次救急を担当する市中病院として common disease を数多く経験することができる一方、臓器別のサブスペシャルティ領域に支えられた高度な急性期医療も経験することができます。救命救急センター、周産期医療センター、がんセンターをはじめとする、数々の県センター機能を担っており、重症疾患や難治性疾患も経験することができます。 主担当医として、入院から退院までの診断・治療の全経過を、責任を持って担当することにより、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になっていただきたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 22,433 名（1 ヶ月平均）　入院患者名 14,624（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修指定施設 日本透析医学会研修認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会研修施設 日本神経学会認定教育教育施設 など

45　湘南鎌倉総合病院

認定基準 【整備基準 23】	・619 床の初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・「ＪＣＩ」（米国の国際医療機能評価機関）認定病院、「ＪＭＩＰ」（外国人患者

[ここに入力]

1）専攻医の環境	受入れに関する認定制度）認証病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット・WiFi 環境がある。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課、臨床心理室）がある。 ・ハラスメント委員会が院内に整備され、月一回開催されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され、HOSPIRATE 認証病院となっている。 ・敷地内に院内保育所（24 時間・365 日運営）があり、利用可能である。 ※「ＪＣＩ」とは・・・米国の医療施設を対象とした第三者評価機関 Joint Commission（元 JCAHO：1951 年設立）の国際部門として 1994 年に設立された、国際非営利団体 Joint Commission International の略称である。世界 70 カ国 700 の医療施設が JCI の認証を取得している。JCI のミッションは、継続的に教育やコンサルテーションサービスや国際認証･証明の提供を通じて、国際社会における医療の安全性と品質を向上させることである。 日本でＪＣＩを取得している医療機関は、当院を含めて 13 機関（2015 年 12 月時点）で、当院は、病院施設として日本では 4 番目に認定を取得した病院である。 ※「ＪＭＩＰ」とは・・・Japan Medical Service Accreditation for International Patients の略称であり、日本語での名称は外国人患者受入れ医療機関認証制度となる。厚生労働省が「外国人の方々が安心・安全に日本の医療サービスを享受できる ように」、外国人患者の円滑な受け入れを推進する国の事業の一環として策定し、一般社団法人日本医療教育財団が医療機関の外国人受け入れ体制を中立・公平 な立場で評価する認証制度である。 ※「HOSPIRATE 認証病院」とは・・・この評価認定は、働く職員にとって、家事・育児・仕事の両立【ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)】を病院側がどのように工夫し、「働きやすい環境」を整備しているかを第三者側から評価するものである。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・内科指導医は 30 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム責任者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置する。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2017 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（SK腎セミナー6回　CKD鎌倉2回、open case conference 4回※総合内科・ERを中心とした英語でのカンファレンス、湘南呼吸器ケースカンファレンス8回；2017年度実績20回、鎌倉若手消化器テクニカルカンファレンス2回）を定期的に開催し、専攻医には受講を原則的に義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・横須賀米海軍病院との合同カンファレンスやexchange programを設ける。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2017 年度開催実績 1 回、受講者 11 名）を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センターが対応する。 ・英国人医師による問診聴取や身体所見の取り方を研修するとともに、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。 ・特別連携施設（瀬戸内徳洲会病院、笠利病院、石垣島徳洲会病院、宮古島徳洲会病院）の専門研修では、電話やインターネット（スカイプ）で月 1 回の湘南鎌倉総合病院での面談・カンファレンスにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 31 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。UpToDate、Dynamed、今日の臨床サポートの医療検索ツールも充実しており、Mobile を用いた検索も全内科医師が可能な環境である。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2017 年度実績 24 回　内訳；徳洲会全体 12 回、院内 12 回）している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2017年度実績13回開催されている）している。再生医療のための特定認定再生医療等審査委員会も設置され

	CPC（cell processing center)が用意され今後の展開が可能。 ・臨床研究センターが設置されており、症例報告のみならず臨床研究への積極的な参画を推進する。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表（2017 年度実績 12 演題）をしている。
指導責任者	小林修三 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南鎌倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数	日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 13 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本血液学会血液専門医名 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 12 名
外来・入院患者数	外来患者　21,324 名　入院患者　53,258 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本病態栄養学会認定施設、日本急性血液浄化学会認定施設、日本アフェレシス学会認定施設、日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院、日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本認知症学会教育施設認定、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設

46　JCHO 東京新宿メディカルセンター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･当院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･ハラスメントに対しては相談担当者を選任し、相談・苦情を受け付けています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，女性専用の当直室が整備されてい

	ます. ·敷地内に院内保育所はないが，専攻医の要望に応じて，終業時間の調整など専攻医が仕事と育児の両立をできるよう病院としてサポートします.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が１7 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2015 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス：医療連携講演会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　3 演題）をしています.
指導責任者	関根　信夫 【内科専攻医へのメッセージ】 　都心のビジネス街に在って、旧くて新しい街、神楽坂近くの総合病院です。急性期病院でありながら回復期リハ・地域包括ケア・緩和ケア病棟を有し、都内屈指の在宅医療体制との連携を含め、時代のニーズに応えるべく幅広い診療を提供しています。内科は各専門分野に指導医・スタッフを揃える一方、当院が誇る総合内科診療チーム（通称‘チーム G’）が複数科の指導医のもと活躍しており、オールラウンドな内科専門医を目指す先生方にとって最適の研修環境となることでしょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名，日本内科学会総合内科専門医 14 名，日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 3 名，日本腎臓病学会専門医 2 名，日本神経学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 2 名，日本緩和医療学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 284807 名（2015 年度）　入院患者 9611 名（2015 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技　能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．都市部ならではの「地域密着型の研修」を行ないます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設

[ここに入力]

	日本神経学会准教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ連合学会認定施設 東京都災害拠点病院 など

47　独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院

認定基準 1） 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・独立行政法人地域医療機能推進機構任期付職員として労務環境が保障されています。 ・研修に必要なインターネット環境と電子図書の利用が可能です。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務企画課）とハラスメントに対処する委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう女性専用の更衣室と当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設で設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・院内で医療倫理、医療安全、感染症対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けます。そのための時間的余裕も与えます。 ・医療安全の e-learning を導入しており、全職員に受講を義務付けています。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファランスが各診療科を中心に開催されているので、このカンファランスに積極的に参加することを薦め、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、代謝内科、呼吸器内科および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・医師主導型の臨床研究および治験を積極的に支援しています。 ・臨床研究倫理審査委員会および治験審査委員会を定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に積極的に演題を出して発表するよう薦め支援しています。
指導責任者	山本　雅人 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院の診療地域は羽田空港からも近く、新幹線も通る東京の玄関口である品川駅周辺であり、渡航者や外国人が多いという特色があります。このような特色ある地域で、旅行医学、外国人診療という特徴のある地域医療を経験することができます。救急受入れも多く、プライマリ・ケアのよい修練となるでしょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名、 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本膵臓学会認定指導医 1 名、日本認知症学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	1 日平均入院患者数：178.4 名　※2018 年度実績 1 日平均外来患者数：549.9 名　※2018 年度実績
経験できる疾患群	内科全般（血液疾患とリウマチ疾患は診断まで）ほとんどのコモンディジーズが経験できます。
経験できる技	内科基本手技全般を経験できます。

[ここに入力]

術・技能	消化管内視鏡（消化器内科）、心臓カテーテル検査（循環器内科）など
経験できる地域医療・診療連携	内科疾患（消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科が中心）全般 救急外来プライマリ・ケア、外国人診療、
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本腎臓学会認定研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、

48　社会医療法人財団互恵会　大船中央病院

認定基準 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・社会医療法人財団互恵会大船中央病院の職員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。 ・ 院内にセクシャルハラスメント相談員がおり、セクハラに関する相談を受け付けている。 ・敷地内に院内保育所が整備されている。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 8 名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち消化器、腎臓、呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 4) 学術活動の環境	
指導責任者	須藤　博 【内科専攻医へのメッセージ】 内科はすべての臨床医学の基本であり，将来どのサブスペシャリティに進むにしても臨床研修の 2 年とその後 3 年の間に基本的な知識・診療態度・思考過程を身につけることは重要である。 各種の検査が駆使される現在においても，適切に行われた病歴聴取と身体診察のみで 70-80%は診断にいたることができるとされている。しかし病歴聴取は単なる情報収集ではなく，実は interactive で高度な skill を要するアートである。臨床研修 2 年とその後の 3 年で病歴聴取と身体診察を充分に身に付けることは到底不可能である。これらは生涯にわたって研鑽すべきことであるが，学び続けようとする「姿勢を学ぶ」ことは研修期間であっても充分可能である。当院の内科では，基本的な病歴聴取・身体診察でどこまで診断に迫れるか，そのための思考過程を理解し，学ぶ姿勢(life-long self learning) を身に付けることを大きな目標としたい。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 0 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	
経験できる疾患群	総合内科・消化器内科・呼吸器内科を中心とした疾患。
経験できる技	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の common diseases。

[ここに入力]

術・技能	
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会　内科専門研修プログラム　連携施設 日本消化器病学会　認定施設 日本消化器内視鏡学会　指導施設 日本消化管学会　胃腸科指導施設 日本感染症学会　認定研修施設 日本呼吸器学会　認定施設 など

４９ 川崎市立井田病院

1）専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •非常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署（総務局担当）があります. •女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり，利用可能です.
2）専門研修プログラムの環境	•内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •JMECC を毎年開催しております. •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付けています。 •医療倫理 ・ 医療安全 ・ 感染対策講習会を定期的に（医療倫理１回，医療安全２回，感染対策４回）開催し，専攻医に受講を義務付け，参加するための時間を与えます. •CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，参加するための時間を与えます.
3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題の学会発表に加えて、内科関連学会での発表も 10 演題を行いました（2019 年度実績）.
指導責任者	鈴木貴博（副院長・地域医療部長・リウマチ膠原病・痛風センター所長） 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎市立井田病院は，東急東横線の中間にある日吉駅から徒歩圏内というアクセスに恵まれた環境にあります。がん拠点病院として健診から緩和医療までシームレスな医療を提供する一方，急性期病院として二次救急を行っています。内科の年間入院症例数は概ね 4410 例（2019 年度実績）で，リウマチ内科の専門医も 4 名在籍しています。サブスペシャリティー専門医である前に皆総合内科医であるとの理念から、サブスペシャリティーをローテート中も入院順番で総合内科症例も受け持ちます。さらに受け持った患者さんを自分の外来で継続的に診療できます。総合内科の一環として緩和医療を学ぶ場合，緩和ケア病棟だけではなく在宅医療も学べます。24 時間体制で入院・在宅の患者さんに対応する体制を整えており、ケアマネージャー・訪問看護との連携など地域包括医療を体験できます。

[ここに入力]

指導医数 （常勤医） 2021 年 4 月時点	日本内科学会指導医 １３名，日本内科学会総合内科専門医 １５ 名 日本消化器病学会消化器専門医 ３ 名，日本循環器学会循環器専門医２名， 日本内分泌学会専門医１名，日本糖尿病学会専門医３名， 日本肝臓学会専門医１名，日本腎臓病学会専門医２名，日本透析医学会専門医２名 日本呼吸器学会専門医４名，日本血液学会血液専門医１名， 日本リウマチ学会専門医 ４名，日本感染症学会専門医１名， 日本アレルギー学会専門医１名,日本救急医学会救急科専門医１名， 日本緩和医療学会認定医１名・専門医 1 名，日本プライマリ・ケア学会専門医１名、ほか
外来・入院患者数（内科系）	外来患者6331 名（1 ヶ月平均）　　入院患者 368 名（1 ヶ月平均）(2019 年実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診 ・ 病病連携在宅医療や緩和ケア医療なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本在宅医学会認定研修施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本プライマリ・ケア連合学会認定研修施設　など

50 **東芝林間病院**

認定基準 【整備基準 23】 1）専門医の環境	・施設内に研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・適切な労働環境の保障がされています。 ・メンタルストレスに対処する部署の整備がされています。

[ここに入力]

認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	指導医が 9 名在籍しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型の症例検討会（2021 年度実績 1 回）を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 23】 3）診療経験の環境	東芝林間病院においては５つの内科系診療科があり、（総合内科を含む）消化器、循環器、代謝、腎臓、神経および救急分野を中心に、幅広く診療を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学会活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等学会発表をしています。
指導責任者	福田直人 【内科専攻医へのメッセージ】 当院における診療実績は、2021 年度内科の入院患者実数は 1,492 名、外来患者数は 68,042 名で、十分な症例数を経験する中で、診断、精査（合併症の評価）、治療、患者教育、療養指導についての理解を深めることが期待できます。
指導医数 （常勤日本透析医学会透析指導医　）	日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本腎臓学会認定指導医 2 名、 専門医 2 名、日本病態栄養学会専門医 1 名、 日本糖尿病協会療養指導医 1 名、日本内分泌学会認定内分泌代謝科指導医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、内科臨床研修指導医 1 名、 日本高血圧学会高血圧専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名、日本消化器病学会消化器病専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本不整脈学会日本振心電学会認定不整脈専門医 1 名、 日本心血管インタベーション学会指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者　12,700 名（1 ヶ月平均） 入院患者　300 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した　　疾患を中心に、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に記された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	領域の診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本透析医学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定指導施設 日本循環器病学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設

51 日本赤十字社医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •日本赤十字社常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. •ハラスメント委員会が日本赤十字社医療センター内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備

[ここに入力]

	されています. •敷地内に託児所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医は 26 名在籍しています. •内科専門研修プログラム管理委員会によって，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修推進室を設置しています. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2018 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（渋谷区医師会日赤合同カンファレンス，循環器科渋谷区パス大会，循環器科渋谷区公開クルズス，東京循環器病研究会，城南呼吸器疾患研究会，城南気道疾患研究会，城南間質性肺炎研究会，渋谷目黒世田ヶ谷糖尿病カンファレンス，城南消化器検討会，東京肝癌局所治療研究会，都内肝臓臨床検討会，東京神奈川劇症肝炎研究会，消化器医療連携研究会，臨床に役立つ漢方勉強会，など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015～2018 年度開催実績各年 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修推進室が対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. •70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. •専門研修に必要な剖検（実績：2014 年度～2018 年度各々25,25,24,22,22 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室などを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催（2018 年度実績 11 回）しています. •治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2018 年度実績 11 回）しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績 4 演題）をしています.
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 日本赤十字社医療センターは日本赤十字社直属の総合病院であり、救急医療、がん治療、周産期を三本柱とする東京中心部の急性期病院です。救命救急センターにおける三次救急、二次救急には研修医の先生に積極的に参加していただいております。当院は癌拠点病院であり、外科治療はもちろん、サイバーナイフ治療、化学治療、そして緩和病棟と一貫した体制がとられ、各科が協力して、とくに内科と外科は密接に関係しながら治療にあたっています。当院は都内有数の周産期病院であり、年間 3000 件を超える出産があり、妊婦や婦人科に関連した疾患も内科において経験することが可能です。その他ほとんどすべての診療科を有し、多種多彩な疾患、症例を経験することが可能となっています。スタッフは各分野のエキスパートであり、指導体制も確立しております。症例報告、各種学会発表、臨床研究、論文作成も積極的に行われております。これまで、当院で研修された数多くの諸先輩医師が各分野における日本の医療を支える立場で活躍しておられます。当院出身の先輩医師の皆さんは当院の出身であることに誇りを持ち、その経験を生かしつつ最前線で医療に携わっております。また、さらに経験を積んだうえで当院に戻られる先生方も多数おられます。新しい内科専門医制度の採用により、実際の症例件数や実技の修達度も明らかとなり、これまでより一層研修の質を向上させてくれることと思います。またさらには関連施設での一定期間の

	研修を組み入れることにより、一つの施設にとらわれない広い視野を持った医師の育成にも良い影響があると考えられます。当院のプログラムは、十分な症例経験、実技経験、地域医療や関連施設での研修を通して、これまで以上に日本の医療に貢献できる医師の育成に寄与すべく作成されております。少しでも多くの専攻医のみなさんが、当院のプログラムに参加されることを期待しております。 内科専門研修プログラム統括責任者　池ノ内浩
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 42 名，日本内科学会総合内科専門医 29 名 日本消化器病学会消化器病専門医 7 名，日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名， 日本腎臓学会腎臓専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本血液学会血液専門医 5 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名， 日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名， 日本救急医学会救急科専門医 5 名　など
外来・入院患者数	外来患者 6,508 名（内科 1 ヶ月平均）　入院患者 14,968 名（内科 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

52　横浜総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室と院内のインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、個室の当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が８名在籍しています（下記）。 ・施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており、専攻医に受講を義務

[ここに入力]

	付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・院内 CPC や症例検討会 を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます　。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	診療経験の環境 カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器 内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、内科系救急、の分野で定常的に専門研 が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内視鏡学会講演会や地方会、内科学会関連学会への出席が可能であり、その費用の一部を病院が負担しております。
指導責任者	指導責任者　　田内　優 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜総合病院は横浜市北部地区にある総合病院です。近隣の大学病院とも連携し、高齢化社会の急性期医療を支えている病院です。救急医療にも力をいれており、5 科での当直体制及びオンコール体制をとり、夜間の緊急手術、カテーテル、内視鏡治療などにも対応しております。 内科系の診療科が協力し、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で本プログラムに定められた研修を通じて内科医を育成し、標準的な内科診療の実践に必要な知識と技術の習得を目的としています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医８名、日本内科学会総合内科専門医９名 日本消化器病学会消化器専門医６名、日本循環器学会循環器専門医８名、 日本内分泌学会専門医１名、日本糖尿病学会専門医２名、 日本腎臓学会専門医２名、日本呼吸器学会呼吸器専門医２名、 日本血液学会血液専門医０名、日本神経学会神経内科専門医３名、 日本アレルギー学会専門医（内科）２名、日本リウマチ学会専門医１名、 日本感染症学会専門医０名、日本救急医学会救急科専門医２名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 16,888 名（1ヶ月平均）　　入院患者 7,078 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本認知症学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 大腸癌研究会施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会専門医教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設

53　恵仁会　松島病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 4 名在籍しています（下記）。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療安全 12 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えることとします。 ・合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器の分野で定常的に 専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 （2022 年度実績　9　演題）をしています。
指導責任者	野澤　博 【内科専攻医へのメッセージ】 松島病院は 2023 年 5 月に松島病院と松島クリニックが統合し新たな病院としてスタートしました。神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	消化器内視鏡専門医：5 名、日本消化器内視鏡学会指導医：4 名、 消化器病専門医：5 名、総合内科専門医：1 名、日本内科学会認定医：4 名、日本人間ドック学会認定 1 名、大腸肛門病専門：11 名、日本大腸肛門病学会指導医：7 名
外来・入院患者数	外来患者　7,330 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　370 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病診連携なども経験できます。
学会認定施設	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器がん検診学会認定指導施設 など

54 国際医療福祉大学成田病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·国際医療福祉大学成田病院専攻医として労務環境が保障されています. ·安全衛生委員会がメンタルストレスに適切に対処します. ·ハラスメント防止委員会が院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 34 名在籍しています（下記）. ·後期研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，プログラム管理委員会が連携施設群との連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2023 年度 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全分野（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	脳神経内科部長 村井弘之
指導医数& 各科専門医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 34 名，日本内科学会総合内科専門医 32 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 3 名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 7,917 名（1 ヶ月平均）　内科入院患者 293 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携なども経験できます.
認定施設	日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設

（内科系）	日本血液学会血液研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 ほか

55 国際医療福祉大学三田病院

56 新百合ヶ丘総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·新百合ヶ丘総合病院内科研修医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（総務課）があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·病院と連携する保育施設があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科指導医は 31 名在籍しています (2025 年 5 月現在). ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器・肝臓病研究所所長），プログラム管理者（消化器内科部長）が，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年計 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群の一部で合同カンファレンスを定期的に主催して，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（新百合ヶ丘病診連携の会；年 2 回, 川崎北部 心臓血管病フォーラム；年 1 回, 新百合ヶ丘循環器フォーラム；年 1 回, 新百合ヶ丘イブニングカンファレンス；年 1 回, 新百合ヶ丘がんセミナー；年 1 回など）を定期的に開催していますが，専攻医に受講のための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催を予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 3 体，2024 年度 3 体）を行っています.

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，カンファレンスルームなどを整備しています. ·研修医専用の研修医室があります. ·倫理委員会を設置し，年 1-2 回開催しています. ·治験管理室を設置しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に 2024 年度に計 1 演題の学会発表をしています．内科専攻医の内科系学会での発表数は 8 演題です。
指導責任者	今城 健人 【内科専攻医へのメッセージ】 新百合ヶ丘総合病院は，神奈川県川崎北部医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に診療します．診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 33 名，日本内科学会総合内科専門医/内科専門医 29 / 9 名 日本消化器病学会専門医 12 名，日本循環器学会専門医 7 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 6 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名，日本血液学会血液専門医 3 名， 日本神経学会専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医（内科）2 名， 日本内分泌学会専門医 2 名，日本肝臓学会専門医 8 名ほか
外来・入院患者数	2024 年 1 日平均患者数：外来 1,100 名，入院 479 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設

	日本認知症学会教育施設 など

57 海老名総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・海老名総合病院常勤医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（本部または産業医・臨床心理士）を設置している。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在籍している。 ・専門研修管理委員会を設置して基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する専門研修管理委員会を設置している。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・施設実地調査に対応可能の体制である
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・専門研修に必要な図書室を整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 3 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	香取 秀幸 （腎臓内科部長・海老名総合病院内科専門研修プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 海老名総合病院は、神奈川県県央地域における唯一無二の高度急性期病院として地域に貢献していくことを目的としています。従って、高度急性期医療の研修が主となりますが、一般目標にも掲げましたとおりヘルスケアの仕組みもきちんと理解して、急性期から慢性期につながる医療の提供ができる能力を専攻医の皆さんにも求めることとなります。大学病院での研修と比べ、より地域に密着し多くの医療機関や福祉施設と連携した医療提供を実感することができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本透析学会専門医 2 名

	日本アレルギー学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 14 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者　422.2 名（1 日平均）　　新入院患者　1,082 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本透析医学会透析専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度特別連携施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医認定関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

3)専門研修特別連携施設

54　みながわ内科クリニック

施設管理者：皆川　冬樹

担当者：皆川　冬樹

連絡先：（電話）045-897-4340　（e-mail）fuyukim@mac.com

所在地：〒247-0006 横浜市栄区笠間 2-14-1 セサミスポーツクラブ大船 1F

ホームページ：https://www.sakae-med.org/navi/navi03.php?org_id=10

55 医療生協かながわ生活協同組合　藤沢診療所

施設管理者：野本　哲夫

担当者：中尾　匡史

連絡先：（電話）0466-25-2514　（e-mail）cl-fujisawa01@mc-kanagawa.or.jp

所在地：〒251-0052 藤沢市　藤沢 854-4

ホームページ：http://www.mc-kanagawa.or.jp/

56　公益財団法人　神奈川県結核予防会　かながわクリニック

施設管理者：杉政　龍雄

担当者：酒井　健

連絡先：（電話）045-251-6592　（e-mail）sakai@kanagawa-ata.or.jp

所在地：〒232-0033 横浜市中区元浜町 4-32　県民共済馬車道ビル内

ホームページ：www.kanagawa-ata.or.jp

57　神奈川みなみ医療生活協同組合　逗子診療所

施設管理者：芹澤　豊次
担当者：芹澤　豊次
連絡先：（電話）046-872-3530　(e-mail) s3-jimucho@k-minami.or.jp
所在地：〒249-0006 逗子市逗子 4-1-7-１F
ホームページ：www.zushi-clinic.jp

58　医療法人社団　松和会　弘明寺腎クリニック

施設管理者：小坂　直之
担当者：佐藤　才華
連絡先：（電話）045-730-5255　(e-mail) gumyouji-cl@showakai.or.jp
所在地：〒232-0056 横浜市南区通町 4-94
ホームページ：

59　中島内科クリニック

施設管理者：中島　茂
担当者：中島　茂
連絡先：（電話）046-829-1091　(e-mail) toiawase@nakajima-naika.com
所在地：〒238-0011 横須賀市米が浜通 1-17　YM ビル２F
ホームページ：www.nakajima-naika.com

60　公益財団法人柿葉会　神奈川診療所

施設管理者：赤塚　英則
担当者：赤塚　英則
連絡先：（電話）045-441-0225　(e-mail) redhiden@rb3.so-net.ne.jp
所在地：〒221-0043 横浜市神奈川区新町１５－６
ホームページ：作成中

61　田浦内科クリニック

施設管理者：杉山　厚
担当者：杉山　厚
連絡先：（電話）046-860-1788　(e-mail) taura-medicalclinic2004@email.plala.or.jp
所在地：〒237-0076 横須賀市船越町 1-58-6
ホームページ：www.taura-med.jp

62　清水ヶ丘病院

施設管理者：杉山　正春
担当者：長谷川　潔
連絡先：（電話）045-231-6714　(e-mail) simizugaoka-hp@room.ocn.ne.jp
所在地：〒232-0007 横浜市南区清水ヶ丘 17

ホームページ：http://www.iryoukyou.or.jp/02area_consult07.html

63　上六ッ川内科クリニック

施設管理者：三島　渉
担当者：三島　渉
連絡先：（電話）045-306-8026　（e-mail）clinic@kamimutsukawa.com
所在地：〒232-0066 横浜市南区六ツ川 1-873-3　サンシティビル１F
ホームページ：www.kamimutsukawa.com

64　医療法人　横浜柏堤会　よこすか浦賀病院

施設管理者：阿部　裕
担当者：大場　俊介
連絡先：（電話）046-841-0922　（e-mail）s_ooba@tmg.or.jp
所在地：〒239-0824 横須賀市西浦賀 1-11-1
ホームページ：www.uraga-hp.com

65　医療法人平和会　平和病院

施設管理者：高橋　修
担当者：高橋　修
連絡先：（電話）045-581-2211　（e-mail）takahashi@heiwakai.com
所在地：〒230-0017 横浜市鶴見区東寺尾中台 29-1
ホームページ：www.heiwakai.com

66　医療法人社団　小磯診療所

施設管理者：磯崎　哲男
担当者：磯崎　哲男
連絡先：（電話）046-842-9571　（e-mail）koiso@diana.dti.ne.jp
所在地：〒239-0813 横須賀市鴨居 2-80-9
ホームページ：www.koiso-clinic.or.jp

67　社会福祉法人　心の会　三輪医院

施設管理者：千場　純
担当者：千場　純
連絡先：（電話）046-822-7045　（e-mail）chibajun.miwaiin@gmail.com
所在地：〒238-0056 横須賀市鶴が丘 2-3-2
ホームページ：http://sakura2000.jp/publics/index/2/

68　医療法人社団　はとりクリニック

施設管理者：羽鳥　裕
担当者：羽鳥　裕
連絡先：（電話）044-522-0033　（e-mail）yutaka@hatori.or.jp

所在地：〒212-0058 川崎市幸区鹿島田 1-8-33　はとりビル３F
ホームページ：www.hatori.or.jp

69　医療法人社団柏信会　青木病院

施設管理者：角野　禎子
担当者：昇　成樹
連絡先：（電話）046-873-6555　(e-mail) hosp.aoki@nifty.com
所在地：〒249-0005 逗子市桜山 6-1336
ホームページ：www.aoki-hospital.or.jp

70　医療生協かながわ生活協同組合　戸塚病院

施設管理者：端山　雅之
担当者：岩瀬　祐香
連絡先：（電話）045-864-4155　(e-mail) hp-ikyoku@mc-kanagawa.or.jp
所在地：〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町 1025-6
ホームページ：totsuka-hp.jp

71　医療法人社団景翠会　金沢病院

施設管理者：高山　篤也
担当者：高山　篤也
連絡先：（電話）045-784-5120　(e-mail) atuya_takayama@keisuikai.or.jp
所在地：〒236-0021 横浜市金沢区泥亀 2-8-3
ホームページ：http://www.keisuikai.or.jp/

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·図書室　インターネット　電子カルテ整備 ·常勤医師と同等の労務環境 ·院内保育所あり（24 時間）.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·院外研修可能 ·医療安全・感染対策委員会への出席. ·地域連携での研修参加.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・消化器・呼吸器・循環器症例あり
常勤医	内科医常勤 4 名
外来・入院患者数	外来患者　6,328 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　3,328 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	消化器・循環器・呼吸器・DM
経験できる技術・技能	内視鏡・エコー
経験できる地域医療・診療連携	病診・病々連携・在宅医療

72　医療法人社団水野会　平塚十全病院

施設管理者：松島　敬忠
担当者：鈴木　周雄

連絡先：（電話）0463-32-8511　(e-mail) juzen@peach.ocn.ne.jp
所在地：〒254-0915 平塚市出縄 550
ホームページ：hiratsuka-juzen.com

73　公益財団法人　神奈川県結核予防会　中央健康相談所

施設管理者：城戸　泰洋
担当者：酒井　健
連絡先：（電話）045 - 251 - 6592　(e-mail) sakai@kanagawa-ata.or.jp
所在地：〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-7
ホームページ：www.kanagawa-ata.or.jp

74　医療法人横浜柏堤会　戸塚共立第１病院

施設管理者：福島　元彦
担当者：戸川　凌
連絡先：（電話）045-864-0125　(e-mail) r-togawa@tmg.or.jp
所在地：〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町 116
ホームページ：www.tk1-hospital.com

75　三浦市立病院

施設管理者：小澤　幸弘
担当者：南　雄大
連絡先：（電話）046-882-2111　(e-mail) byouin0101@city.miura.kanagawa.jp
所在地：〒238-0222 三浦市岬陽町 4-33
ホームページ：www.city.miura.kanagawa.jp/byouin/

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 臨床研修協力施設である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 研修医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレス、ハラスメントに関して病院に衛生委員会が設置されている。三浦市役所の人事課とも必要に応じて連携。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(年 2 回ずつ)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経および救急分野で定常的な専門研修が可能な症例数を診療している。
指導責任者	兒玉康史 【内科専攻医へのメッセージ】 三浦市立病院は二次救急拠点病院であり、三浦半島地域の救急医療を担っています。また地域密着型の病院として地域に根ざした医療を行っています。

外来・入院患者数	外来患者　7,700 名(1 ヶ月平均)　　入院患者　　237 名(1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、62 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本消化管学会胃腸科指導施設

76　うしおだ在宅クリニック

施設管理者：小澤 仁

担当者：菊池　輝

連絡先：（電話）045-574-1011　（e-mail）ikyoku@ushioda.or.jp

所在地：〒230-0001 横浜市鶴見区矢向 1-6-20

ホームページ：www.ushioda.or.jp/

77　しまむらクリニック

施設管理者：嶌村 健

担当者：嶌村 健

連絡先：（電話）044-788-0008（e-mail）takesuica@aol.com

所在地：〒川崎市高津区子母口 497-2

ホームページ：http://shimamura-clinic.jp/

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･院長が総合内科専門医・消化器内視鏡指導医・肝臓専門医・がん治療認定医をはじめ学会評議員の資格を有し、総合内科的な一般診療をベースとして川崎中部地域の中核医療機関として診療を担っております。 ･非常勤医師は、呼吸器内科専門医・感染症専門医・糖尿病専門医・腎臓専門医の医師たち総勢 10 名が診療所の治療をサポートしている医療機関です。.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･消化器系疾患・臨床腫瘍（緩和ケア）・糖尿病内分泌疾患を始め、一般内科的な疾患から各分野の専門疾患の診断・治療まで、患者様の外来での診療や更には在宅での訪問診療を経験することができます。 ･特に、癌終末期の患者様をご自宅で緩和ケア・看取りをすることを通じて、患者様の肉体的な苦痛をケアするだけではなく、そのご家族様の看病・介護に対する精神的苦悩をケアすることの重要性が学べます。.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	外来患者数（1 か月３４００名）　　上部内視鏡検査（１年間 1500 例） 下部内視鏡検査（１年間 1000 例）　　内視鏡下手術（1 年間　７５０例） 訪問診療患者（月１２０例　　癌患者 35 名　慢性期疾患 85 名　　年間看取り 50 例)
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･院長が米国留学や国内研究機関での勤務経験があり、随時研究サポート・指導も可能です。
指導責任者	嶌村 健 【内科専攻医へのメッセージ】 患者の病気の診断・治療を学ぶだけではなく、患者の生い立ち・生活スタイル・家族背景を探り、患者様やそのご家族様が苦悩している本質が何かまでケアできる診療をご指導いたします。
外来・入院患者数	外来患者　　3400　名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	消化器・臨床腫瘍・呼吸器・糖尿病内分泌代謝・腎臓・感染症
経験できる技術・技能	内視鏡（上部・下部）検査　・　内視鏡下手術
経験できる地域医療・診療連携	癌患者様への化学療法・在宅での緩和治療や看取り。慢性期疾患の患者様への訪問診療

78 聖ヨゼフ病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・常勤医師または非常勤医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課・看護部・産業医）がある。 ・ハラスメントに適切に対処する部署（総務課・看護部・産業医）がある。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医が 3 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示すのうち、総合内科、膠原病（リウマチ）の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。また、日本リウマチ学会総会での学会発表と日本病院総合診療医学会誌への論文投稿を定期的に行っている。
指導責任者	柴田朋彦 【内科専攻医へのメッセージ】 聖ヨゼフ病院は 2020 年新棟が完成しました。当院では専門性にとらわれない内科診療と質の高いリウマチ診療を地域に提供しいます。当院は急性期病床のみならず地域包括ケア病床、療養病床を持っており、各病床の特徴を理解しながら研修を行っていただきます。内科専修医の皆様には、指導医のもとで一般内科外来（初診・再診）と入院患者の診療を担当いただきます。入院診療は一般内科疾患がメインですがリウマチ分野の専門疾患が含まれており、この分野の研修が同時に可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名、日本病院総合診療医学会指導医　1 名 日本リウマチ学会指導医 2 名　日本呼吸器学会指導医　1 名 日本老年医学会指導医　1 名　日本内科学会総合内科専門医　6 名 日本専門医機構総合診療特任指導医　1 名（予定）
外来・入院 患者数	外来患者　2,742 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　4,696 名（1 ヶ月平均） 32,914 名（延患者数）全体　　56,362 名（延患者数）全体
経験できる疾患群	高齢者の入院が多く複数の疾患を併せ持つため、多くの疾患群の経験ができる。 中でもリウマチ、呼吸器分野は多くの経験が可能である。
経験できる技術・技能	CV 挿入をはじめ、技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できる。また、リウマチ分野では関節エコーや関節穿刺の経験を積む事ができ、呼吸器の分野では気管支鏡の経験が可能である。
経験できる地域医療・診療連携	当院では急性期医療だけでなく、地域包括ケア病床と療養病床を有しており、これらの病棟の特性を生かした研修ができる。また、在宅支援病院として多くの病診連携症例と自院での訪問診療の経験ができる。超急性期病院と連携しながら入院外来患者に

	対する適切なタイミングでの患者搬送を実践できる。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本リウマチ学会教育施設　　日本病院総合診療医学会認定施設

横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2017年2月現在の予定）

横浜市立大学附属2病院

前田　愼　（消化器内科　主任教授）
中島　秀明　（血液リウマチ内科　主任教授）
金子　猛　（呼吸器内科　主任教授）
田村　功一　（腎高血圧内科　主任教授）
寺内　康夫　（内分泌糖尿病内科　主任教授）
田中　章景　（神経内科・脳卒中科　主任教授）
中島　淳　（肝胆膵消化器内科　主任教授）
稲森　正彦　（医学教育学　主任教授）
市川　靖史　（がん総合医科学　主任教授）
大野　滋　（リウマチ膠原病センター部長）
木村　一雄　（心臓血管センター部長）
沼田　和司　（消化器病センター部長）
工藤　誠　（呼吸器病センター部長）
藤澤　信　（血液内科部長）
平和　伸仁　（臨床研修教育センター　センター長）
山川　正　（糖尿病内科部長）
上田　直久　（神経内科部長）
斎藤　真理　（化学療法センター　センター長）
築地　淳　（感染制御部部長）
国崎　玲子　（IBDセンター部長）

連携施設担当委員

連携施設、特別連携施設より施設代表者1名

オブザーバー

内科専攻医1年生代表　1名
内科専攻医2年生代表　1名
内科専攻医3年生代表　1名

整備基準 44 に対応

横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム
専攻医研修マニュアル

1）専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，

神奈川県横浜市南部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム終了後には，横浜市立大学附属病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する，または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です．

2）専門研修の期間

基幹施設である横浜市立大学附属病院内科で，専門研修（専攻医）3 年間の間に 1 年間の専門研修を行います.
毎年秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）および研修施設群の各医療機関の状況などを基に，次年度の専門研修（専攻医）研修施設を調整し決定します．なお，カリキュラムの知識，技術・技能を修得する見込みが高いとと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます（個々人により異なります）．可能であれば，内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域を決めておくことをおすすめします.

3）研修施設群の各施設名（P.19「横浜市立大学附属病院研修施設群」参照）
基幹施設：　　横浜市立大学附属病院
連携施設：
(連携施設)
1　公立大学法人　横浜市立大学附属市民総合医療センター
2　一般財団法人神奈川県警友会　けいゆう病院
3　一般財団法人同友会　藤沢湘南台病院
4　一般社団法人日本海員掖済会 横浜掖済会病院
5　小田原市立病院
6　学校法人帝京大学　帝京大学医学部附属溝口病院
7　公益社団法人地域医療振興協会　横須賀市立市民病院
8　公立学校共済組合　関東中央病院
9　国際医療福祉大学附属熱海病院
10　国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院
11　国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院
12　国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院
13　国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院
14　公益社団法人　地域医療振興協会　横須賀市立うわまち病院
15　社会福祉法人 親善福祉協会　国際親善総合病院
16　社団法人日本厚生団　長津田厚生総合病院
17　社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市東部病院
18　社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市南部病院
19　社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷横浜病院
20　茅ヶ崎市立病院
21　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立足柄上病院
22　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立がんセンター
23　地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立循環器呼吸器病センター
24　独立行政法人　労働者健康福祉機構　関東労災病院
25　独立行政法人労働者健康福祉機構　横浜労災病院
26　独立行政法人　国立病院機構　相模原病院

27　独立行政法人　国立病院機構　横浜医療センター
28　独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院
29　独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院
30　日本赤十字社 静岡赤十字病院
31　日本赤十字社 秦野赤十字病院
32　日本赤十字社東京都支部　大森赤十字病院
33　平塚市民病院
34　藤沢市民病院
35　町田市民病院
36　大和市立病院
37　横浜市立市民病院
38　横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
39　NTT 東日本関東病院
40　川崎医療生活協同組合　川崎協同病院
41　汐田総合病院
42　藤枝市立総合病院
43　医療法人同心会遠山病院
44　山梨県立中央病院
45　湘南鎌倉総合病院
46　独立行政法人地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター
47　独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院
48　大船中央病院
49　川崎市立井田病院
50　東芝林間病院
51 日本赤十字医療センター
52 横浜総合病院
53 恵仁会 松島病院
54 国際医療福祉大学成田病院
55 国際医療福祉大学三田病院
56 新百合ヶ丘総合病院
57 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院

（特別連携施設）
54　みながわ内科クリニック
55　医療生協かながわ生活協同組合　藤沢診療所
56　公益財団法人　神奈川県結核予防会　かながわクリニック
57　神奈川みなみ医療生活協同組合　逗子診療所
58　医療法人社団　松和会　弘明寺腎クリニック
59　中島内科クリニック
60　公益財団法人柿葉会　神奈川診療所
61　田浦内科クリニック

62　清水ヶ丘病院
63　上六ッ川内科クリニック
64　医療法人　横浜柏堤会　よこすか浦賀病院
65　医療法人平和会　平和病院
66　医療法人社団　小磯診療所
67　社会福祉法人　心の会　三輪医院
68　医療法人社団　はとりクリニック
69　医療法人社団柏信会　青木病院
70　医療生協かながわ生活協同組合　戸塚病院
71　医療法人社団景翠会　金沢病院
72　医療法人社団水野会　平塚十全病院
73　公益財団法人　神奈川県結核予防会　中央健康相談所
74　医療法人横浜柏堤会　戸塚共立第１病院
75　三浦市立病院
76　うしおだ在宅クリニック
77　しまむらクリニック
78　聖ヨゼフ病院

4）プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P.89「横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

指導医名（P.101「専門研修指導医一覧」参照）

5）各施設での研修内容と期間

前年度の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，次年度の専門研修（専攻医）の研修施設を調整し決定します.

6）本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

代謝，内分泌，総合診療，救急領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 30 名に対し十分な症例を経験可能です.

＊ 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.19「横浜市立大学附属病院内科専門研修施設群」参照）.

＊ 剖検体数は 2015 年度 41 体，2016 年度 24 体，2017 年度 39 体，2017 年度 26 体，2018 年度 23 体，2019 年度 22 体，2020 年度 25 体，2021 年度 19 体，2022 年度 15 体、2023 年度 18 体、2024 年度 14 体、2025 年度 13 体（2026 年 2 月 13 日現在）です.

7）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域の入院患者に加えて，内科として順次他領域の入院患者も主担当医として担当します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

①入院患者担当の目安（基幹施設：横浜市立大学附属病院での一例）

他領域の入院患者は，当該月に入院患者数名を主担当医として退院するまで受持ちます.

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で， subspecialty 領域と他領域とを併せて 7～10 名前後を想定しています．感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます.

＊ 1 年目の 4 月に循環器領域で入院した患者も原則として退院するまで主担当医として診療にあたります．これを繰り返して subspecialty 領域だけでなく内科領域全般の患者を分け隔てなく，主担当医として診療します.

②臨床現場での学習の目安

★ 横浜市立大学内科専門研修プログラム　4．専門知識・専門技能の習得計画　に従い、内科専門研修を実践します。

・内科全体と各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。

・入院患者診療には、内科全体と各診療科（Subspecialty)の入院患者の診療を含みます。

・日当直やオンコールなどは、内科全体と各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。

・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

・ 日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために，提示されている症例数（P.100 別表 1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく，研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います.

8）自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．必要に応じて臨時に行うことがあります.

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします.

9）プログラム修了の基準

① 日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて，以下のⅰ)～ⅵ)の修了要件を満たすこと.

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みです（P.55 別表 1「各年次到達目標」参照）.

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています.

iii）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で２件以上あります.
iv）JMECC 受講歴が１回あります.
v）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります.
vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます.

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを横浜市立大学附属病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約１か月前に横浜市立大学附属病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 1 年間＋連携施設 2 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長することがあります.

10） 専門医申請にむけての手順
① 必要な書類
i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
ii）履歴書
iii）横浜市立大学附属病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法（正式な期日は日本専門医機構内科領域認定委員会の定めによります）
内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します.

③ 内科専門医試験
内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

11） プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇
在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従います（P.17「横浜市立大学附属病院研修施設群」参照）.

12） プログラムの特色
① 本プログラムは，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院である横浜市立大学附属病院を基幹施設として，神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設１年間＋連携施設・特別連携施設２年間の３年間です.
② 横浜市立大学附属病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的

に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

③ 基幹施設である横浜市立大学附属病院病院は，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

④ 基幹施設である横浜市立大学附属病院での１年間と連携病院での１年間を合わせた計２年間、もしくは連携施設での２年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.100 別表 1「各年次到達目標」参照）．

⑤ 横浜市立大学附属病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

⑥ 基幹施設である横浜市立大学附属病院での 1-2 年間と専門研修施設群での 1-2 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P.100 別表 1 「各年次到達目標」参照）．少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を主担当医として経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します．

⑦ 日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために，提示されている症例数（P.100 別表 1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく，研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います．

13） 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します．結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります．

・カリキュラムの知識，技術・技能を修得する見込みが高いと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます（個々人により異なります）．可能であれば，内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域を決めておくことをおすすめします．

14） 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

15)　研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

16)　その他

特になし.

整備基準 45 に対応

横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム
指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.

・担当指導医は，専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します.

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センター（仮称）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います.

2) 専門研修の期間専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法，ならびにフィードバックの方法と時期

・年次到達目標は，P.100 別表 1「各年次到達目標」に示すとおりです.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．評価終了後，1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します.

3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います.

・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います.
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除，修正などを指導します.

4） 日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）の利用方法
・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します.
・担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います.
・専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します.
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します.
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と臨床研修センター（仮称）はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
・担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します.

5） 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いた指導医の指導状況把握
専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6） 指導に難渋する専攻医の扱い
必要に応じて，臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に横浜市立大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます．状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7） プログラムならびに各施設における指導医の待遇
各指導医が勤務する医療機関の給与規定によります.

8） FD 講習の出席義務
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.
指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用

います.

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し，形成的に指導します.

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11) その他

特になし.

別表１　　各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 （任意選択含む）	45疾患群 （任意選択含む）	20疾患群	29症例 （外来は最大7）※3
症例数※5		200以上 （外来は最大20）	160以上 （外来は最大16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する．
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，80 症例まで登録が認められる．病歴要約として 14 症例まで登録が認められる．

日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために，提示されている症例数に拘泥することなく，研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います．

専門研修指導医一覧

2017 年 2 月 1 日現在

各施設代表者のみ

基幹病院

前田　愼　（横浜市立大学附属病院）

連携病院

平和　伸仁　（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
玉井　伸明　（一般財団法人神奈川県警友会　けいゆう病院）
荒川　健太郎　（一般財団法人同友会　藤沢湘南台病院）
長倉　靖彦　（一般社団法人日本海員掖済会 横浜掖済会病院）
池内　哲　（小田原市立病院）
馬場　泰尚　（学校法人帝京大学　帝京大学医学部附属溝口病院）
小松　和人　（公益社団法人地域医療振興協会　横須賀市立市民病院）
水野　有三　（公立学校共済組合　関東中央病院）
山田　佳彦　（国際医療福祉大学附属熱海病院）
桃尾　隆之　（国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院）
渡邉　秀樹　（国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院）
押川　仁　（国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院）
小泉　晴美　（国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院）
岩澤　孝昌　（公益社団法人　地域医療振興協会　横須賀市立うわまち病院）
清水　**誠**　（社会福祉法人 親善福祉協会　国際親善総合病院）
高村　武　（社団法人日本厚生団　長津田厚生総合病院）
比嘉　眞理子　（社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市東部病院）
川名　一朗　（社会福祉法人　恩賜財団 済生会　横浜市南部病院）
石橋　啓如　（社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷横浜病院）
佐藤　忍　（茅ヶ崎市立病院）
常松　尚志　（地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立足柄上病院）
大川　伸一　（地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立がんセンター）
萩原　恵里　（地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立循環器呼吸器病センター）
入江　誠治　（独立行政法人　労働者健康福祉機構　関東労災病院）
大村　昌夫（独立行政法人労働者健康福祉機構　横浜労災病院）
出島　徹　（独立行政法人　国立病院機構　相模原病院）
髙橋　竜哉　（独立行政法人　国立病院機構　横浜医療センター）
大岩　功治　（独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院）
後藤　英司　（独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院）
田口　淳　（日本赤十字社 静岡赤十字病院）
瀧沢　利一　（日本赤十字社 秦野赤十字病院）
後藤　亨　（日本赤十字社東京都支部　大森赤十字病院）

坂口　隆　（平塚市民病院）
西川　正憲　（藤沢市民病院）
伊藤　聡　（町田市民病院）
松本　裕　（大和市立病院）
小松　弘一　（横浜市立市民病院）
城倉　健　（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター）
臼杵　憲祐　（NTT 東日本関東病院）
田中　久善　（川崎医療生活協同組合　川崎協同病院）
鈴木　義夫　（汐田総合病院）
大畠　昭彦　（藤枝市立総合病院）
青木　俊和　（医療法人同心会遠山病院）
神宮寺　禎巳　（山梨県立中央病院）
守矢　英和　（湘南鎌倉総合病院）
溝尾　朗　（JCHO 東京新宿メディカルセンター）
山本 雅人　（独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院）
須藤　博　（大船中央病院）
村井　弘之　（国際医療福祉大学成田病院）
鈴木　貴博　（川崎市立井田病院）
今城　健人（新百合ヶ丘総合病院）
香取 秀幸　（海老名総合病院）

＊　連携施設では、指導医の代表として、専門研修プログラム連携施設におけるプログラム管理委員会、研修委員長および担当者（指導医の場合）を記載しています。他の指導医はここでは省略していますので、各医療機関の HP などで確認してください。